

專有權ヲ保護セントシ又人種上ニ於テハ到底治癒スヘカラサル敵愾心アル上ニ米國ヲシテ白人ノ專有カ乃至少クトモ白黒兩人種ノ共有トシテ之ヲ維持セントノ決心ハ年々歲々其度ヲ高メ其行動ハ遂ニ太平洋沿岸地方ヲシテ東洋人排斥論ノ苗床タラシムルニ至レリ」

右論旨ノ當否ハ暫ク措テ問ハス唯茲ニ注目スヘキハ當時既ニ「市民タルノ權利ハ附與セラルヘキ特權ニシテ渡航シ來ル總テノ外人カ當然ニ要求シ得ヘキ權利ニ非ス米國國民ノ認メテ以テ有害又ハ願ハシカラストスル外人ノ入國ヲ禁止又ハ制限スルハ米國國民固有ノ權力ニ屬ス」ト云フカ如キ思想米國國民一般ノ頭腦ヲ支配シ支那勞働者排斥ノ自家ノ利益安寧ノ擁護上必要ニシテ至當ノ處置ナルコトハ最早米國國民一般ニ認メテ敢テ之ヲ疑ハントスル者殆ト之ナキニ至リタルノ事實ナリ尤モ米國ノ資本家鑛業者等中特ニ其西部ニ於ケルモノハ支那勞働者ノ效用ヲ稱道シ其移入ヲ辯護スルモノナキニ非サリシモ彼等ハ專ラ其自家營業上ノ利害ヨリ立論スルモノニシテ極言スレハ支那人ハ之ヲ殆ト牛馬ニ等シキ苦力トシテ傭役スルニ於テ效用多シト見ルニ過キス之ヲ以テ眞個ニ對等ノ人種換言スレハ米國國民ノ發達上ニ願ハシキ一分子ヲ加フルモノトシテ歡迎セントスルモノニアラス斯ノ如クニシテ支那人ノミナラス其他一般ノ外來移民特ニ亞細亞系移民ノ入國ヲ適宜ニ制限スルハ國家自衛ノ必要上止ムヘカラサル所ナリト云フカ如キ信念ハ漸次米國國民ノ輿

論ヲ動カスニ至レルナリ

第三節 一八八五年及一八九一年米國移民法ト日本移民ノ上陸禁止

第一、日本移民上陸禁止問題ノ發生

一八八五年及一八九一年米國移民法制定前後ノ事情ハ前節記述ノ通ナルカ米國ニ於テ東洋人排斥ノ聲高マルニツレ從來比較的寛大ナリシ移民法ノ勵行漸次峻嚴トナリ一八九一年以後渡米日本移民ニシテ上陸禁止ノ厄ニ遭フモノ頻出セリ

一、「オシアニック」號「リオ・デ・ジャネイロ」號「ゲーリック」號事件

一八九一年（明治二十四年）三月二十日桑港入港ノ汽船「オシアニック」號ニテ和歌山、山口、廣島縣等ヨリ勞働者四十餘名、四月七日入港ノ「リオ・デ・ジャネイロ」號ニテ同上諸縣ノ勞働者二十五名、四月十四日入港ノ「ゲーリック」號ニテ同上諸縣並ニ熊本縣勞働者二十八名渡航シ其中明カニ移民法規ニ抵觸スヘキ無資力勞働者モ尠カラサリシヤニ認メラレタルモ各自旅券ヲ所持シ且係官ノ取調ヘニ對シ申開キ立チ上陸ヲ許可セラレタリ

二、「レムス」號事件

然ルニ四月二十一日入港ノ獨逸汽船「レムス」號ニテ熊本、長崎、廣島等ノ勞働者五十三名着桑シタル處其大部分ハ衣服モ満足ニ纏ハス其所持金モ多キモ十數圓少キハ僅ニ數十錢ニ止リ一見貧困者タルコト明瞭ナリシヲ以テ桑港稅關長ハ斷然其上陸ヲ差止メタリ其間保證金ヲ納入シ身元ノ保證ヲ爲シ之ヲ引取りテ就職ヲ周旋セシモノアリ二十三日ニ至リ旅券ヲ有スル者三十餘名ハ上陸許可セラレタリ然ルニ天草島住人ニシテ九名ノ無旅券者アリ所持金モ至ツテ尠ク所謂貧困者ニ該當スルモノトシテ遂ニ上陸ヲ禁止セラレ同船ニテ直ニ歸國セシムヘキ旨決定セルカ在桑港珍田領事ノ盡力ニ依リ探出シタル身元引受人ヲシテ身元引受ヲ爲サシメ上陸ヲ許可セラレタリ

三、「ペンブトス」號事件

右「レムス」號渡航始末未タ全ク落着セサル中ニ又四月二十二日獨逸汽船「ペンブトス」號ニ搭乘シ熊本、廣島等ノ勞働者六十七名渡航セリ而モ其中旅券ハ所持スルモ其職業如何ハシキ婦女十五名アリ孰レモ桑港稅關長ヨリ嚴重ナル取調ヲ受ケ中男六名女九名上陸禁止ヲ命セラレタリ依テ珍田領事ハ在米建野公使ニ電請シ大藏長官ニ對シ非公式交渉ノ結果四名ハ直ニ桑港ニ於テ上陸ヲ許可セラレタリ然ルニ他ノ男一名ハ不治ノ梅毒症ニ罹リ且九名ノ婦女ハ醜業婦タルノ疑充分ナ

ルコト判明シタル結果遂ニ上陸ヲ差止メラレタリ

本件ニ關シ建野公使ハ青木外務大臣ニ對シ近來本邦人ノ米國ニ渡航スルモノ日々其數ヲ加フルニ從ヒ其中ニハ所謂契約勞働者トシテ渡航スルモノアルヤニモ聞エタルモ今日ニ至ル迄未タ嘗テ上陸差止處分ヲ受ケタルコトナク無事ニ濟ミタル處今回ノ一事ヨリ桑港稅關ニ於テ將來ハ一層嚴密ニ點檢ヲ施行スルニ至ルヘク從テ向後上陸差止ノ處分ヲ受クルモノ續出スルヤモ計リ難キニ付テハ本邦ニ於テ布告ヲ發シ若ハ横濱ノ如キ發船港ニ於テ精密ニ檢査ヲ施シ米國移民法ニ不案内ノモノカ射利的冒險者ニ欺カレ空シク米國ニ渡航スルノ損害ヲ豫防スルコト極メテ緊要ナルヘキ旨上申シ同シク珍田領事ハ青木外務大臣ニ對シ此際各府縣知事ニ對シ米國移民法ノ趣旨ヲ指示シ自今旅行免狀下附願出アルモ猥リニ其願書ヲ外務省ニ執達セサル様且各開港場縣知事ハ無旅券渡航者ニ對シ一層取締ヲ嚴重ニスヘキ様訓達アリタキ旨竝ニ桑港ハ歐亞人種ノ接觸點ニシテ我國ノ榮名ヲ維持スル爲最モ大切ナル場所ナレハ其地ニ來ル本邦人ハ其處ニ於テ直ニ我國民ヲ代表シ國名ヲ維持スヘキハ極メテ重要事ナルニ近來ノ如ク醜業者貧困者異裝者續々來航シテハ自然米國人ヲシテ我國人ニ對シ嫌惡ノ情ヲ懷カシメ遂ニ米國勞働社會及之ヲ背景トスル政治家ヲシテ支那人同様排斥ヲ爲サントスルノ傾向ヲ強カラシメ此儘ニ推移センカ遂ニ全世界ノ擯斥人種タルヘキコトヲ

恐ル旨ノ意見ヲ上申セリ依テ同年六月十六日榎本外務大臣ハ各地方長官ニ通牒ヲ發シ渡航ノ爲ノ旅券又ハ證明書下附願出ノ際ハ本人ノ身元目的等嚴密ニ取調ヘ苟モ移民法ニ抵觸スヘキモノニ對シテハ旅券又ハ證明書ヲ下附セサルハ勿論假令移民法ニ抵觸セサルモノト雖成ルヘク確實ノ目的ナキモノニハ旅券又ハ證明書ヲ下附セサル様爲スヘク右ハ現行旅券制度ハ渡航ヲ禁止スルノ趣旨ニハ非サルモ近來米國ニ渡航スルモノ陸續相踵キ其爲我國人ニ對スル業務又ハ勞働ノ需要頓ニ減少シ遂ニ多數ノ帝國臣民ヲシテ異域ニ於テ路頭ニ迷ハシムルノ憂尠カラサル現狀ニ於テハ後來本人ノ不幸ニ關スル場合ニハ充分ニ注意ヲ加ヘ以テ事ノ未然ニ保護スヘキ趣旨ナル旨訓令シタリ

第二、日本移民ニ關スル米國ノ輿論

一、加州諸新聞ノ論調

米國殊ニ加州ノ諸新聞ハ一八九一年（明治二十四年）移民法制定以來一般ニ日本ヨリノ契約移民排斥ノ態度ヲ採リ同年四月七日移民法制定以來初メテ桑港ニ入港ノ汽船「リオ・デ・ジャネイロ」號搭乘ノ日本移民ニ關シ夙ニ警戒的ノ言辭ヲ弄シ四月二十一日入港ノ「レムス」號ニ依リ渡航シタル日本移民ニ關シ桑港稅關長「フエルプス」カ They seem to be just built for the immigration laws ト云フカ如キ言語ヲ發シタル事ヲ記シ彼等五十三名ニ付其容貌ノ憂愁ニ滿チタル模様ヲ敍

シ其服裝ハ男子用トモ女子用トモ判明セサルモノヲ纏ヒタル様ハ服裝改良論者ヲシテ赤面セシムト言ヘリ「シャツ」ヲ着用セスシテ「ネクタイ」ヲ付ケ下着無シニ裸ノ上體ニ直ニ「チヨッキ」ヲ着タル又一婦人ノ如キ頸迄達スル「コルセット」ヲ着ケタル者アリ中ニハ癩病患者アリ等殆ト嘲弄的ノ記事ヲ掲ケタリ四月二十二日入港ノ「ペンブトス」號ニテ渡航セル日本移民ニ關シテモ其最下級ニ屬スル勞働者ナルコト及其貧困ナルコト竝ニ無智蒙昧ナルコトヲ記述セル新聞アリ

二、桑港「ブレティン」紙及桑港「エキザミナー」紙ノ記事

五月三日桑港「ブレティン」紙ハ之等日本移民ニ關スル記事中彼等カ米國ニ齎スヘキモノ如何ト問ヒ其回答トシテ *So far we have had a case of leprosy and many women come to ply what is a legitimate trade in their own country.* ト記シ五月四日ノ桑港「エキザミナー」ハ同シク日本移民ニ關スル長文ナル記事ヲ掲ケ日本移民カ流入シ多クハ群ヲ爲シテ集團生活ヲ營ミ料理人又ハ女中代用等輕キ勞働ニ從事シテ白人婦女子ノ勞働口ヲモ奪ヒ或ハ「ボーター」園丁料理店給仕骨董店店員タルモノアルモ而モ彼等ノ多クハ契約勞働者ニシテ日本婦人中ニハ最初女店員トシテ渡來セリト稱シ實ハ醜業ニ從事スルモノアリ「ペンブトス」號ニテ渡航ノ十三名ノ日本婦人ノ如キハ明カニ「ボートランド」ニテ醜業ヲ營ム目的ヲ以テ一白人ニ連行セラレタルモノナリト記セリ

第三、上陸禁止問題ノ發生ト帝國政府ノ措置

一、珍田領事ノ移民取締意見上申

一八九一年（明治二十四年）八月十一日在桑港珍田領事ハ榎本外務大臣ニ對シ其後引續キ渡航ノ日本移民ノ上陸禁止問題ノ頻發ト米國勞働社會ノ日本移民ニ對スル輿論ノ趨向ニ鑑ミ苟モ契約勞働者タルノ疑アル者ノ渡航ヲ差止メ且米國移民法ノ趣旨ヲ更ニ徹底的ニ周知方ニ付稟請スル所アリ

二、日米移民相互禁止ニ關スル建野公使ノ意見

同年十一月七日在米建野公使ハ榎本外務大臣ニ對シ其後米國民ノ日本人ニ對スル感情ハ何等變更ヲ見ス移民制限法其他何等カノ取締法ヲ施行スル方ニ傾キ居リ早晚日本人移住制限論者カ議會ニ於テ勝ヲ制スルニ至ルヘキハ必然ノ事ニシテ右ハ全ク政治家カ西部ノ人望ヲ收攬センカ爲ニ主張スル論ニシテ言ハハ一時政略上ノ必要ニ外ナラス深ク國家經濟上若ハ人種上ノ論據アルニ非サレハ樽俎ノ間道理ヲ盡シテ論評スルモ無用ノ事ニ過キス將又東南部一般ノ人民ハ本邦人ニ對シ至ツテ親切ナル感情ヲ抱キ居ルモ何分西部ノ政治家ヲ制肘スル丈ノ熱心ト勢力ヲ有セス今日ニ至リテハ我移民ノ情況ハ殆ト挽回スヘカラサルノ境遇ニ沈淪シタルヲ以テ時宜ニ依リテハ米國ノ行政官

若ハ議員或ハ其他ノ有力者ニ對シ臨時ニ若シ合衆國ニ於テ日本移住民制限法ヲ制定シ之ヲ執行スルニ至ラハ帝國政府モ亦北米合衆國人民ニ對シ何分ノ制限ヲ設定スルコトニ盡力スヘキ旨ノ宣言ヲ爲スノ訓令ヲ兼テ抱庸シ居ルコト最モ必要ナルヘキ旨稟請シタリ依テ榎本外務大臣ハ建野公使ニ對シ米國ニ於テ日本人移住制限論益々其勢力ヲ占メ遂ニハ制限法ヲ議會ニ提出セントスルモノモアル場合ニ於テハ本邦ニ於テモ相當ノ應酬策ヲ採ル様盡力スヘキ旨宣言シ以テ該論敗滅ノ資ニ供スヘク但シ米國ニ於テ愈々該法ヲ執行スルニ當リ帝國政府ハ果シテ該宣言ノ如ク米國人ノ移住ニ對スル制限法ヲ執行スルヤ又ハ他ノ相當ナル應酬策ヲ講スルヤハ固ヨリ其時ノ都合タルヘキ旨回答セリ

三、地方長官ニ對スル移民取締ノ通牒

一八九二年（明治二十五年）四月二十六日榎本外務大臣ハ各府縣知事ニ對シ近來本邦人ノ海外ニ渡航スルモノ非常ニ其數ヲ加ヘ右取締方ニ關シ諸縣ヨリ伺出ノ向モアル處向後數多ノモノ同時ニ渡航ヲ企テ又少數ト雖續々同一地方ニ向テ發向移住セントスル場合ニ於テハ其目的ノ出稼ト否トヲ問ハス其都度篤ト情狀ヲ取糺シ一應外務省ヘ届出ノ上處分スヘキ旨内訓セリ而テ同年五月更ニ重ネテ安藤移民課長ヨリ和歌山、福井、山口、廣島、熊本、新潟、大阪及神奈川ノ各府縣知事ニ

對シ近時米國及英領加奈陀或ハ布哇ニ向ケ數多ノ我出稼人渡航スルモ其多クハ在外知人ノ勸誘若ハ出稼好況ノ風聞ヲ漫信スルニ止リ外ニ充分確實ナル目的ナク從テ到處容易ニ職業ヲ見出ス事能ハス而シテ生計孰レモ高度ノ土地柄タルヲ以テ日常ノ費用ニ所持ノ金錢ヲ消失シ其極遂ニハ異常ナル低格ノ賃銀ニ甘シ競フテ雇口ヲ搜索スルカ如キ有様ナルト渡航者ノ増加スルニ從テ勞働市場ハ追々充溢ヲ告クルノ模様モ見エ其影響ハ獨リ從來ノ出稼者ノ聲價ヲ落サシムルノミナラス之カ爲高賃銀ノ勞働ニ從事スル白人ノ力役社會ヨリ嫌惡ヲ蒙リ支那人ト同一視セラルルニ至ル傾向ナキヲ保シ難ク既ニ米國ハ勿論加奈陀地方ニ於テモ亞細亞人拒絶論ハ愈々盛ニシテ其成行大ニ本邦人ニトリ寒心スヘキモノアルヲ以テ向後多數ノ渡航者アル節ハ篤ト前顯ノ如キ海外ノ實況ヲ熟考ノ上果シテ其渡航不都合ナシト認定スルニ非サレハ可成之ヲ諭止スヘク去迎相當ノ旅費ヲ有シ確實ノ目的ヲ有シ強テ請願ニ及ハハ假令多人數ト雖之ヲ抑止シ難クナルヘキニ付斯ル場合ハ本邦人ヲ以テ組織セル會社又ハ個人ニシテ政府ニ對シ移民保護上相當ノ責務ニ任スヘキ者ヲ經由シテ渡航セシムルカ如キ手段ヲ採ルヨリ差當リ他ニ適當ノ便法無カルヘク右經由ニ付テハ單ニ責任者ノ紹介若ハ保證ヲ要スルニ止メ又場合ニ依テハ渡航者ト勞働上ノ契約ヲ爲シ更ニ其紹介ニ依テ外國雇主ト結約セシムル等臨機處分ヲ意味スル次第ニシテ北米合衆國ノ如キ移民法規アレハ其邊ハ責

任者ニ於テ充分注意スヘキモノナルヘキ旨通達セリ

第四、排日論ノ浸潤

一、桑港「エキザミナー」紙ノ排日論

一八九二年（明治二十五年）四月二十八日桑港「エキザミナー」紙ハ日本移民ノ問題ハ從來一般ニ看過セラレ居タルカ本問題カ未タ現狀ノ如キ狀況ニ止ル間ニ必要ナル對策ヲ講セサル時ハ竟ニ往年支那人ニ對シテ採リタルカ如キ苛酷ナル手段ヲ採用スルノ止ムナキニ至ルヘシ現在桑港日本領事館ノ調査ニ依レハ太平洋岸ニ日本人四千名（内二百名ハ婦人）アリ彼等ハ非常ニ低廉ナル賃銀ヲ以テ甘シテ勞働ニ服シ都會ニ於ル家内勞働ヲ始メ農地果樹園ニ於テモ白人ヲ驅逐シツツアリ而シテ日本婦人中ニハ渡米後醜業ニ從事スルモノスラアリト記載セリ

二、桑港「ブレティン」紙ノ排日論

五月四日桑港「ブレティン」紙ハ日本移民中都市ニ留ル者ノ中大部分ハ學生ニシテ僅少ナル報酬ヲ以テ家内勞働ニ從事スル爲白人ノ婢僕ノ職ヲ奪ヒ其生活程度極メテ低ク文明生活ニ缺クヘカラサルモノスラ必要トセス沿岸海員組合ニ於テモ日本ノ水夫ノ低率ナル賃銀ノ爲賃銀低下ノ危險ニ曝サル彼等カ加州ニ來ルハ永住ノ目的アルカ故ニアラス晩年ヲ安樂ニ暮ス爲貯金ヲ爲スヲ以テ目的

トス而シテ支那人ト同シク結婚シテ妻子ヲ有スル者極少數ナリ故ニ或種ノ日本婦人ハ之等獨身ノ男子ヲ顧客トスル醜業婦トナル統計ノ示ス所ニ依レハ四月渡航ノ日本移民ハ四百九十七名ニ上リ最近着港ノ「ベルヂック」號ノミニテモ日本男子移民百五十六名來レルモ其ノ何レモカ學生ト稱シ居レリ然レ共其ノ容貌風采ヨリ判斷スレハ家僕乃至農民程度ノ階級ニ屬スルモノタルコト明ナリト記載セリ

三、桑港「リポート」紙ノ排日論

五月四日桑港「リポート」紙モ「奴隸賣買」ノ題下ニ往年支那婦人ヲ醜業ノ目的ヲ以テ渡米セシメタルト同様ノコト日本婦人ニ付テモ行ハレ在桑港領事及日本人有志家ノ盡力ニモ不拘根絶セシムルコトヲ得ス日本政府モ旅券發給ニ當リ取締ヲ勵行スルモ效果見ルヘキモノナク現在旅券規則ノ缺陷ニ乘シ屢々無旅券ニテ渡航シ來リ熟練刺繡家又ハ婢女トシテ上陸許可セラル移民官ハ不道徳ナル婦女子カ上陸後一ケ年以内ニ醜業ニ従事スルコト發見セシ時ハ本國ニ送還シ得ル權限ヲ有スルニモ不拘之ヲ實行セス反テ移民當局者中日本ノ醜業婦ノ入國ヲ援助スルカ如キ疑アルモノアルハ遺憾ナリト記セリ

四、桑港「モーニング・コール」紙ノ排日論

五月六日ノ桑港「モーニング・コール」紙ノ如キ五月四日以後連日在留邦人ノ生活風習ノ短所ヲ殊更ニ揶揄的ノ筆法ヲ以テ記シタル後遂ニハ日本政府ハ特ニ移民事務官ヲ桑港ニ派遣シ暗ニ之ヲ獎勵シツツアリ等記セルヲ以テ在桑港珍田領事ハ右ノ如キ誤解ニ基ク記事ヲ其儘打捨置ク時ハ桑港地方勞働社會ノ迷想ヲシテ一層鞏固ナラシムルノ虞アリト認メ「コール」社ニ照會正誤方ヲ申込ミ右記事中心ニ掲載アリタル税關長「フェルブス」ノ談話中心ニモ本邦移民ニ關シ不穩當ト認ムヘキ個所不尠サリシヲ以テ同氏ニ對シテモ同シク抗議ヲ申込ミタル處税關長ヨリ右ハ全ク該新聞探訪員ト談話ノ際ノ誤聞ニ出テタルモノニシテ同税關長ニハ未タ曾テ日本政府ハ右様ノ事務官ヲ桑港ニ派遣セシヲ聞カサルノミナラス又曾テ同政府カ桑港地方ニ向ケ其人民ヲ移住セシメントスルノ希望ヲ有スルコトヲ知ラス唯在米日本人中加州人殊ニ園藝ニ従事スル者若ハ葡萄栽培者ノ代理トナリ日本勞働者ノ渡航ニ付周旋盡力スル者アルコトハ事實ナリト回答セリ然ルニ五月十八日ニ至リ「コール」紙ハ再ヒ本邦人渡航ニ關スル記事ヲ掲載シ曩ニ珍田領事ヨリ抗議ノ書面ニ對シ記事誤謬ノ點ニ付毫モ謝罪ノ意ヲ表セサルノミナラス却テ該書面中ノ數句ヲ摘載シ漫リニ反駁ノ意思ヲ記述スルカ如キ態度ヲ示セリ珍田領事ハ元來桑港ノ如キ米國ノ地方都會ノ新聞社會一般ノ陋習トシテ言責ヲ負フノ義務ヲ感セス一旦其紙上ニ掲載シタル事項ニ關シテハ飽迄其正誤ヲ肯ンセ

サルハ毎度ノ經驗ニ徴シ如何トモスヘカラサルモノナリト認メ此上取消ヲ要求スルモ實效ナキノミナラス却テ飛言ヲ傳唱スルノ機會ヲ與フルノ虞モアリ且領事ニ於テ一意本邦渡航者ヲ曲庇シ其上陸ヲ企圖スル等ト彼等カ平素抱持スル疑念ヲシテ更ニ増長セシメ却テ其狂熱ヲシテ一層度ヲ高カラシムルカ如キ結果ヲ齎ス危險アルコトヲ慮リ前記「コール」紙ノ記事取消請求ニ關シテハ此際之以上何等ノ手段ヲ採ラサル事トセリ

五、上陸禁止ノ頻發ト珍田領事ノ移民取締意見上申

同年五月十二日在桑港珍田領事ヨリ榎本外務大臣宛電信ヲ以テ最近一ヶ月ニ日本移民五百餘名着桑同地各新聞紙ハ頗ル過激ナル論說ヲ掲ケ而シテ目下多數ノ契約労働者等ヲ送還センカ爲検査ヲ嚴密ニスル際ナルヲ以テ我渡航者ニ對シ今後一層ノ制限ヲ設クル事望マシキ旨申越セリ依テ不取敢榎本外務大臣ハ右電信ヲ關係各府縣知事ニ移牒シ更ニ將來ニ於テハ猶一層ノ注意ヲ加フル様訓令シタリ其後五月十日付公信ヲ以テ珍田領事ヨリ本件ニ關シ更ニ詳細ナル報告アリ右ニ據レハ四月初旬汽船「オーストラリア」號ニ搭シ布哇ヨリ渡航セル下等船客中熊本縣人末松某外二名ハ移民検査官ニ於テ契約労働者ニ屬スルモノト査定シ之カ上陸ヲ拒絕シタルニ付珍田領事ヨリ其理由ヲ質シタル處本人等ハ同検査官ヨリ検査ヲ受クル際其ノ渡來ノ目的タル全ク加州「サクラメント」

市在留本邦人某ノ招キニ應シ日給一弗四年間同地ニ労働スルノ契約ヲ以テ渡來セシ趣申立テ別ニ契約書ノ如キ證書類ヲ所持セスト雖モ既ニ其ノ契約ヲ爲シタルノ形跡ハ本人等各各自ノ口述ニ依リ明カニシテ移民法中契約労働ノ簡條ニ抵觸シ剩ヘ渡航船賃ノ如キモ末松某ナル者ニ於テ他ノ二名分ヲ代拂セシメタルハ移民法中他人ニ依リ船賃ヲ支辨セラレシ者云々ノ簡條ニ違反セルモノナルニ付其上陸ヲ拒絕セル旨同検査官ヨリ回答アリ其後右三人ハ次回便船ヲ以テ再ヒ布哇ニ送還セラレタリ次テ四月十四日本邦ヨリ桑港ニ入港ノ汽船「チャイナ」號ニ搭シ本邦下等船客百四十九名渡航セル處航行中船内ニ於テ天然痘患者發生セシヲ以テ入港後一同「エンヂェル」島檢疫所ニ移サレ同所ニ於テ二週間陸地ト交通遮斷ノ末漸ク同月二十七日ニ至リ上陸許可セラレタルカ右ノ中二十五名ハ契約労働乃至病氣ノ廉ヲ以テ移民法違反ノ爲翌二十八日解纜ノ同船ニテ本邦ニ送還セラレタリ又四月二十二日「ボートランド」港繫泊「バタヴィア」號ニテ渡航セル本邦移民山下某ハ曾テ二ケ年間程「リバーモア」及「ウエルモント」ノ製造場ニ就働シ居リタルモノナルカ最近日本ニ赴キ一弗ノ日給ヲ以テ同製造場ニ就働スルノ契約ヲ以テ他ノ十三名ヲ引連レ來レルモノニシテ其他ニモ二名船賃ヲ他人ノ支辨ニ依リ渡航シタルモノアリ總テ移民法違反ノ廉ヲ以テ上陸ヲ禁止セラレタリ然ルニ彼等ハ五月六日ニ至リ英領「ヴィクトリア」港ヨリ來航ノ汽船「グラ

ンド・ホルン」號ニ搭シ萬一ヲ僥倖シ再ヒ桑港ニ來レルモ夙ニ「ボートランド」税關長ヨリ桑港移民検査官ニ通報アリタルコト故再ヒ上陸ヲ拒絕セラレタリ

五月一日桑港入港ノ「ベルヂック」號ニテ本邦下等船客百五十八名來着シ中九十二名ハ上陸許可セラレタルモ殘餘ノ六十六名ハ移民法違反ノ廉ヲ以テ一時上陸ヲ拒絕セラレタリ依テ珍田領事ハ移民検査官ニ面會シ移民法違反ノ證據歷然タルモノハ送還差支ナキモ苟モ契約労働者ノ證據不充分ナルモノハ可成速ニ上陸セシムヘキ様要求シタル處同月六日ニ至リ六十六名中二十五名續テ九日更ニ二名上陸許可セラレタリ尙珍田領事ハ右報告中ニ於テ之等本邦労働者ノ多數ハ和歌山、廣島、山口及熊本四縣ノ農夫ニシテ何レモ目ニ一丁字無キ純粹ノ田舎漢タルノミナラス言語作法ノ粗野ナル服裝ノ奇怪ナル一見其労働者タルヲ認知シ得ヘク時々街上群ヲ爲シテ逍遙シ路傍ノ行人ヲシテ顧望セシムル場合往々アリ愈々此種ノ在留民増加スルニ於テハ本邦ニトリ金錢上或ハ多少ノ裨益有之ヘキモ兎角米國人ニ對シ本邦人ノ地位ヲ低メ一層其侮蔑ヲ受クルニ至ルノミナラス遂ニハ日本人排斥ノ口實ヲ得セシメ其極或ハ支那人ノ覆轍ヲ踏ムニ至ルヘキヤモ計リ難ク且右労働者ノ如キ渡航ノ際米國移民法ノ何タルヤヲ知ラス彼等自身ニトリ巨額ナル船賃ヲ費消シ米國ニ來着後其目的ヲ果サスシテ空シク送還ノ不幸ニ遭フカ如キ實ニ憫察ニ堪ヘサル次第ナルニ付此際其

筋ニ於テ右等渡航者ニ對シ相當ノ取締法ヲ設ケ今日ノ如キ不都合ヲ釀成セサル様至急必要ナル措置ヲ執ラレタキ旨稟請セリ依テ榎本外務大臣ハ重ネテ六月十四日各地方長官ニ對シ一八八五年並一八九一年移民法ノ趣旨ヲ渡航者ニ猶一層良ク徹底セシメ契約移民ノ渡航ヲ諭止セシムヘキ旨訓令セリ尙參考ノ爲本問題發生前ニ於ケル渡航日本移民數(桑港移民局調査)ヲ示セハ左ノ如シ

一八九一年		合計	
		男	女
一	月	三七	三三
二	月	一〇五	九三
三	月	九五	八三
四	月	二〇八	一八六
五	月	一二三	一〇三
六	月	一二一	一一五
七	月	四一	四〇
八	月	三九	三六
九	月	三四	三三
		合計	
		三七	三三
		一〇五	九三
		九五	八三
		二〇八	一八六
		一二三	一〇三
		一二一	一一五
		四一	四〇
		三九	三六
		三四	三三

十	月	四六	四三	三
十一	月	三〇	二八	二
十二	月	五七	五五	二
一八九二年				
一	月	二一	二〇	一
二	月	四〇	三九	一
三	月	六九	六六	三
四	月	四九七	四九一	六

四六

六、桑港「エキザミナー」紙ノ排日論

五月二十五日桑港「エキザミナー」紙ハ本邦移民流入ノ問題ニ關シ日本移民ノ出稼ハ日本ニトリテハ單ニ賃銀ノ形ニ於テ金錢上ノ收入増加アルノミナラス日本ヨリ「燐寸ノ使用法サヘ知ラサル農民」カ移住スルトキハ自然日本ヨリ米、乾魚、醬油、漬物等食料品、綿絲布、紙等ノ輸出増加シ一般財政的ニモ至大ノ利益アルヘシ然レ共毎年三十萬宛増加スル日本ノ人口ノ捌口トシテ低賃銀ニ甘ンスル日本勞働者ノ渡航先ナル米國ニトリテハ右ハ迷惑至極ナル旨ヲ論シタリ

七、「デニス・カーネー」ノ排日煽動

往年「デニス・カーネー」ナル者支那人排斥運動起リシ際各地ヲ巡歴シテ其放逐ヲ主張シ其輕快ノ辯ヲ以テ大ニ米國勞働社會ノ歡心ヲ買ヒ細民小戸ノ間ニ尠カラサル勢力ヲ及ホスニ至リシカ其後同人ハ其勢力ヲ利用シテ私利ヲ圖ル等不都合ノ行爲アリシ爲勢力頽然地ニ委シ有識ノ政治家ハ勿論無智ノ勞働者ニ至リテモ同人ヲ指彈シテ之ト行動ヲ共ニスルヲ潔シトセサル有様トナリシ處本邦人ノ來航漸ク多ク桑港ノ諸新聞之ニ對シテ往々銳鋒ヲ向クルヲ見テ同人ハ此新聞問題ヲ以テ奇貨措クヘカラストナシ往年ノ聲望ヲ挽回セントスルノ野心ヲ懷キ一八九二年（明治二十五年）七月ニ至リ盛ニ桑港街頭ニ出テ演說ヲ試ミ轉シテ「サクラメント」「サン・ノゼ」地方ニ赴キ同一ノ主旨ヲ繰返シテ頻リニ勞働社會ヲ煽動スルコトニ努メタルモ勞働社會ハ同人カ曾テ支那人排斥論ヲ提唱シタル際不徳ノ行爲アリシヲ想起シテ再ヒ同人ノ術中ニ陷ルヲ恐レ耳ヲ傾クル者多カラス却テ其ノ議論ニ反駁ヲ加フル者アリ嘗テ桑港某街ニ於テ公開演說ノ際或ル一名ノ勞働者他ノ街頭ニ立チ大イニ同人ノ說ヲ駁撃シ聽衆爲ニ二分スルニ至リタルコトスラアリ結局大ナル影響ヲ示スニ至ラサリキ

八、陸奧外務大臣ノ移民取締通牒

一方米國移民法發布以來同國ヘノ渡航者取締ニ付テハ帝國政府ハ屢々各地方長官ニ内訓シタルニモ不拘引續キ同法違反ノ惧アル者ノ渡航尠カラサルニ付一八九二年八月二十三日陸奧外務大臣ハ各地方長官ニ對シ米國ニ於ケル本邦人ニ對スル感情ハ未タ回復ノ場合ニ至ラス時トシテハ從來冷遇ヲ蒙リ居タル支那人ト同一視セラレントスルノ模様スラモ相見エ甚タ寒心スヘキ事態ニアル處右ハ畢竟スルニ米國移民法ノ趣旨未タ了解セラレサルモノニ依ルモノト認メラルルニ付テハ此際一層適宜ノ方法ニ據リ渡航者ヲシテ官廳ノ說諭ヲ待タス自身先ツ其ノ境遇ヲ推知シテ無謀ノ舉ニ出テサル様致スヘキ旨訓令セリ

九、日本移民ノ布哇ヨリ米大陸ヘノ轉航問題

同年十月四日付ヲ以テ陸奧外務大臣ハ在布哇正木總領事ニ對シ近時本邦人米國ニ渡航スルモノ逐日増加シ從テ彼地ニ往々物議ヲ醸ス形勢アルニ付右現地米國ノ勞働問題ニ鑑ミ向後本邦人ヲシテ可成米國ニ移住セシメサル様スル外無ク布哇ヨリ米國ニ向ケ移住セントスル者ニ對シテハ可成渡米ヲ見合セ歸國ノ途ニ就ク様說諭アリタキ旨訓令セリ

一〇、日本移民ニ關スル米國國務長官代理及大藏長官代理ノ書翰

右地方長官竝正木總領事宛陸奧外務大臣ノ訓令ハ英譯ノ上兼テ移民問題ニ對シ外務大臣ニ申入ノ次第アリタル在本邦米國公使「クームス」宛送付シ置タル處右ニ對シ九月三十日同公使ヨリ陸奧外務大臣ニ對シ私信ヲ以テ其厚意ヲ謝シ且米國國務長官代理及同國大藏長官代理ノ書翰二通（附屬書第三號）外務大臣ノ内覽ニ供シ度キ旨ヲ以テ送付越タルカ其趣旨ニ依レハ米國政府ハ帝國臣民ニ對シ故ラニ他國人ト待遇ヲ異ニスル意無ク畢竟契約勞働者ヲ排斥セントスル移民法ヲ一般的ニ適用スルニ過キサルモノナル旨相見エタリ

第五、學童問題ノ前兆

從來桑港勞働者カ本邦移民ニ對シ嫌惡ノ情ヲ懷キ初メ動モスレハ其敵意ヲ表示セントスル事例漸ク頻發シ來レルハ單ニ下等社會ノ言動ニ止マリ敢テ齒牙ニ掛クルニ足ラサルモノノ如ク思ハレ居タルモ一八九三年（明治二十六年）六月桑港學務局カ本邦人ノ公立學校入學ヲ禁止スルノ決議ヲ爲シタルハ事態其物ヨリ云フモ主動者ノ地位ヨリ見ルモ決シテ市井無責任者ノ言動ト同一視スルヲ得ス俄然右ハ内外ニ於テ相當重要視セラルルニ至レリ本問題ハ其後一九〇六年ノ有名ナル桑港學童問題ノ前兆トシテモ相當重要視スルノ要アルニ付左ニ其要領ヲ記スヘシ

一八九三年六月十四日桑港學務當局 (Board of Education) 例會ニ於テ委員ノ一人ナル「バーク」

ヨリ向後日本人ノ公立學校入學ヲ禁止シ單ニ支那人小學校ニ限り其ノ入學ヲ許可スヘシトノ決議案提出セラレ滿場一致ヲ以テ可決セラレタリ

右決議案ノ所謂支那人小學校トハ曩ニ加州ニ於テ支那人排斥ノ氣運最モ猛烈ナリシ際加州人ハ其兒童ヲシテ蒙古人種ノ兒童ト同一校ニ混座セシメテ其惡習慣ニ感染セシムルヲ嫌ヒ特別ノ法制(附屬書第四號)ヲ設ケ特ニ支那人ノ爲ニ設立シタルモノニシテ其ノ課程ハ簡易小學ニ止マルノミナラス全市中一校舎アルノミ故ニ本邦人ニ於テ右ノ如キ一種特別ノ歴史ヲ有スル校舎ニ入ルトキハ就學ノ便否ハ措クモ在米同胞一般ノ體面ヲ傷クル事淺少ナラス或ハ他日本邦人ヲシテ支那人同様ノ地位ニ陷ラシムルノ第一步トナルヤモ計リ難シト觀察セラレタリ

右決議原文左ノ通

Resolved, That the Board of Education is determined in its efforts to effect the establishment of separate schools for Chinese and Japanese pupils, not only for the purpose of relieving the congestion at present prevailing in our schools, but also for the higher end that our children should not be placed in any position where their youthful impressions may be affected by association with the pupils of the Mongolian race.

學務局ニ於テ前述ノ如キ決議ヲ爲スニ至レル理由ハ單ニ本邦人ノ公立學校ニ通學スルモノハ學齡

超過ノモノ多キト本邦人學校ニ蟠集スル爲米兒ノ校席ヲ奪フ虞アリトノ二理由ニ基キタルモノナリ然ルニ學齡超過ノモノアリシカ爲他ノ適齡者ヲモ之ニ引包メテ兒童カ法律上享有シ得ヘキ權利ヲ蹂躪スルハ非理ノ甚シキモノナルノミナラス校舎狹隘ノ口實ニ付考フルニ普通教育ニ關スル加州ノ法律ニ依レハ學區内ニ居住スル兒童學齡ニ達スルトキハ必ス之ヲシテ修學ノ途ニ就カシムヘシトノ明文アリテ就學ノ權利上毫モ内外人ノ區別ヲ設ケサルニ鑑ミ果シテ事實校舎狹隘ヲ告クルトキハ増築シテ充分ニ適齡兒童ノ需要ヲ充タスヘキハ當局者ノ責任タルハ明カナリ然ルニ殊更法文ノ措テ問ハサル國籍上ノ區別ヲ立テ僅ニ數十名ニ過キササル本邦人學童ヲ目シテ米兒ノ校席ヲ奪フト爲スカ如キハ牽強附會タルヲ免レサルノミナラス亦明カニ右ハ加州教育令違反ノ行爲ナリト認メラレタルヲ以テ在桑港珍田領事ハ不取敢學務局長「ハイド」ヲ訪問シ當夜ノ情況ヲ聞糺シタル處當夜ノ會議終了セントスル際「パーク」急ニ右決議案ヲ提出シ各委員ハ熟考ノ暇モナク滿場一致ヲ以テ通過シタルカ今日ニ至リ其決議ノ不當不法タリシコトニ付悔悟シツツアル旨ヲ表明セリ因テ珍田領事ハ次回ノ會議ニ於テ新議案ヲ提出シ右決議ノ取消取計方ヲ依頼シ又他方右事件再議請求書ヲ該局ニ送り且珍田領事自ラ各委員ヲ訪問シテ其ノ非ヲ鳴ラシ右取消動議可決ノ爲奔走方ヲ依頼シ委員十二名ノ中七名ハ珍田領事ノ意見ニ同情ヲ表シ之ニ對シ充分盡力方ヲ約スルニ至

リ六月二十八日ノ會議ニ於テ多少ノ曲折ヲ經タル上七票對二票ヲ以テ前回ノ決議ヲ撤回セリ

第六、移民排斥法制定運動

一、移民取締ニ關スル陸奧外務大臣ノ通牒

一八九三年（明治二十六年）七月陸奧外務大臣ハ地方長官ニ對シ近來桑港ニ於テ移民法違反ノ廉ヲ以テ上陸ヲ拒絕セラルルモノ増加スルニ伴ヒ一旦「ブリティッシュ・コロムビア」地方ニ赴キ彼地ヨリ米國華州等へ轉住ヲ企ツル者漸ク増加シ現ニ「タウンセンド」等ニ於テ契約労働者タルノ故ヲ以テ入國ヲ拒絕セラレタルモノ男女共ニ尠カラス且「アイダホ」州華州等ニ於テハ本邦人ヲ嫌惡スルノ情勢漸ク強盛ナルニ至リタルヲ以テ米國政府ハ本邦人ノ來住ニ對シ益々嚴密ナル取締法ヲ施行セントスル内意モ有之趣在米建野公使及在晚香坡鬼頭領事代理ヨリ申報アリ右ハ或ハ在「ブリティッシュ・コロムビア」州在住ノ本邦人ニシテ偶々在米外國人若ハ本邦人ノ勸誘等ニヨリ入米シタルモノモ有之ヘキモ故ラ英領ヲ經過シ以テ米國ニ入ランカ爲表面晚香坡へ渡航ノ趣ヲ申立テ本邦ヲ出發スル者ノ中米國ニ入ルニ際シ始メテ同國移民法ノ峻嚴ナルヲ知り其ノ輕舉ヲ悔悟スルモノ尠カラサルヘキニ付テハ米國ニ直航ヲ企ツル者ノミナラス英領及其他地方ヲ經由シテ間接ニ同國へ渡航セントスル者ニ對シテモ相當ノ注意アリタキ旨訓令スル處アリタリ

二、「ベキン」號事件

一八九四年（明治二十七年）日清戰爭中本邦人ニシテ渡米スルモノ稀少ナリシヨリ物議ヲ醸スコトナク平穩ニ經過シタル處一八九五年（明治二十八年）五月中旬ニ至リ汽船「ベキン」號俄ニ本邦労働者ヲ百二十餘名搭載シ桑港ニ入港シ移民検査官ヨリ契約労働者ナリトノ嫌疑ヲ受ケ嚴密ナル取調ヲ受ケタル末疑義氷解夫々上陸ヲ差許サレタリ右ニ關シ桑港「ブレティン」紙ハ大イニ不服ヲ唱ヘ且頻リニ我労働者ニ關スル記事ヲ掲載シ煽動的筆法ヲ以テ連日痛ク日本労働者排斥論ヲ唱ヘタリ右ハ一小新聞ノ論議ニ過キサルモ之カ爲多少世人ノ注意ヲ喚起シタルハ又蔽フヘカサル事實ナリ其論議ノ要點ハ日本政府ハ今次日清戰爭ノ結果トシテ俄然東洋ニ頭角ヲ現ハシ今ヤ米國ニ續々出稼人ヲ渡航セシメ米國労働者ノ賃銀ニ對シ一大競争ヲ試ミントス然ルニ日本人ハ日ニ僅ニ四十仙ノ如キ薄給ヲ以テ満足スルヲ以テ白人労働者カ之ト競争スルコト能ハサルハ明カリ又日本労働者ハ本國ニ於テ契約ヲ結ビ渡航スルモノニシテ實ニ米國一般社會ニ對スル罪人ナリ然レ共合衆國ノ契約労働ニ關スル法規不完全ニシテ之カ施行ニ從事スル検査官亦常ニ寛大ニ流レ到底證據ヲ摘發シ彼等ノ上陸ヲ禁止スル能ハサルハ今日「ベキン」號ノ例ヲ以テ明カナリ依テ此際合衆國ハ斷乎タル處置ヲ採リ今ニシテ支那人同様日本人放逐條例ヲ作り彼等ノ渡米ヲ禁止スル

ニ非サレハ日本ヨリノ來住者ノ害ハ支那人ニ比シ更ニ大ナルニ至ルヘシト云フニアリ
 右新聞ノ議論ニ促サレテカ移民検査官「ストラッドレー」加州勞働委員「フィゼラルド」ノ兩人
 ハ「ブレザントン」地方ニ出張シ契約勞働ノ件ニ關シ同地方在留本邦勞働者ニ對シ嚴密ナル取調
 ヲ爲シタルカ別段ノコトモ無ク歸桑シタリ然ルニ桑港ノ「コール」「エキザミナー」兩紙ハ兩氏ノ
 出張記事ヲ過大ニ掲載シ今回ノ舉ニ付大イニ贊同ノ意ヲ表シ殊ニ「コール」紙ノ如キハ虛構ノ事
 實ニ基ク煽動的社説ヲ掲ケ陰ニ日本人ニ對シ支那人同様放逐條例ノ制定ヲ主張スルモノノ如ク認
 メラレタリ而シテ右ハ「ペキン」號事件ニヨリ突如惹起セラレタル形勢ニ非スシテ從來長ク加州
 ニ釀成セラレタル排日氣運カ偶々今日ノ事件ヲ機縁トシテ表面ニ現レ來レルモノニ過キス右ニ關
 シ在桑港上野二等領事ハ西園寺臨時外務大臣ニ對シ向後本邦勞働者ノ渡米ヲ禁制スルカ若シ之ヲ
 禁制スル能ハサル事由ニテモアラハ勞働者ノ渡航取締法ヲ嚴ニシ苟モ契約勞働ノ嫌疑アルモノハ
 一切其渡航ヲ禁止セラレタキ旨ノ意見ヲ上申アリ依テ西園寺外務大臣ハ地方長官ニ右ノ趣ヲ通達
 スルト共ニ帝國政府トシテハ本邦勞働者ノ渡航禁制ハ固ヨリ行ヒ得ヘキニアラス又取締法ニ至テ
 ハ既ニ移民保護規則モ發布セラレ且契約勞働ノ嫌疑アル米國渡航者ニ對シテハ旅券ヲ下附セサル
 様豫テ注意シタルコトナレハ今更別ニ嚴重ナル取締法ヲ設クルニハ及ハサルモ前述ノ如ク許多ノ

勞働者カ渡來スルハ果シテ移民取扱人若ハ身元引受人ニ依リテ渡航シタルモノナリヤ若シ之等ニ
 依リタルモノトセハ其間米國移民法所禁ノ契約ヲ有セサリシカ尙勞働者ハ單獨ニシテ旅券ヲ得ル
 ノ途ナキヨリ移民取扱人ニ依リ旅券ヲ受ケントスルノ傾向ヲ生シ移民取扱人モ之等勞働者ノ依頼
 アルヲ奇貨措クヘカラスト爲シ渡航後ノコトハ毫モ顧慮セス一意渡航周旋料ヲ得ントスルカ如キ
 コトアルニ於テハ甚タ不都合ナル義ニ付假令移民取扱人ニ依レル移民ト雖移住地ノ情況渡航ノ目
 的移民取扱人ノ代理人ノ添派スルト否及移住先又ハ移住地ニ於テ執ルヘキ業務ヲ詐ラントスルノ
 形跡ナキヤ否等詳細取調ヘ之等數項ニ對シ一モ差支ナキモノニ限り證明致スヘキ旨訓令セリ

三、米國移民局長「ハーマン・スタンプ」ノ談話

一八九五年（明治二十八年）九月下旬米國移民局長「ハーマン・スタンプ」晚香坡ニ來リ在同地
 能勢二等領事ニ對シ同氏ハ加奈陀國境竝「ブリティッシュ・コロムビア」州各港及米國「タコマ」及
 「シアトル」市等ニ於ケル東洋移民ノ實況視察ト派出検査官ノ職務督勵ノ爲巡回スルモノニシテ
 今回大藏長官ノ内命ヲ受ケ同地方ニ出張シタル主因ハ近來米國議會議員中勞働派ニ屬スルモノハ
 本年議會ニ於テ大イニ東洋移民排斥運動ヲ爲サントテ種々其材料ヲ蒐集中適々「ブリティッシュ・コ
 ロムビア」州駐在ノ米國検査官ハ自己ノ私利ヲ圖リ移民ノ入國ヲ嚴重ニ調査セサルヨリ東洋人ハ

移民法ノ規定嚴重ナルニモ拘ラス逐月入國ノ數ヲ増ス有様ニシテ加之頃日「タコマ」市派出検査官ヨリ大藏省ヘノ報告ニ依レハ同市ニアル北太平洋鐵道會社ハ數百人ノ契約労働者ヲ日本ヨリ募集セントシテ既ニ該市在留ノ一日本人ト密約セリトテ更ニ一層労働派ノ氣勢ヲ煽リ物議頗ル騷然タレハ該事實ノ有無ヲ探聞センカ爲ニ來晩セリト内談セリ

能勢領事ハ右ハ大イニ事實ニ相違スルコト就中在留本邦人カ北太平洋鐵道會社ト契約労働者供給ノ密約ヲ爲シタリ云々ノ如キハ米國検査官ノ誤聞ニ出ツルモノニシテ我國ニハ移住民保護規則ナルモノアリテ移民取締方充分行届キ居ルコト竝ニ加奈陀在留日本移民ノ實況ヲ詳述シ我移民ハ支那移民ト同日ニ論スヘカラス米國當局ニ於テモ玉石混淆ノ弊ナカラシムヘキ様充分注意ヲ加ヘラレタキ旨述ヘタル處「スタムプ」ハ米國政府ニ於テハ敢テ日本移民ニ對シ新ニ制限法等ヲ設ケ以テ帝國ノ歡心ヲ失フカ如キ愚ハ學ハサル考ナルモ如何セン彼ノ労働派議員ナルモノハ政略上自ラ他ニ利スル所アリテ頻リニ全國ノ労働者ヲ煽動シ必ス議會ニ排斥案ヲ提出セント努メツツアルカ如シ或ハ本年議會ニ該案ノ提出セラルコトナキヲ保セスト雖恐クハ僅ニ下院ヲ通過スルノミニテ上院ニ於テハ必ス失敗スヘシトハ華府ニ於ケル一般ノ觀察ナリ然レトモ萬一不幸ニシテ議會開會前ニ於テ彼ノ労働派議員カ熱心ニ搜索スル所ノ材料即チ日本ヨリ契約労働者ノ渡來スルニ於テ

ハ適々彼ノ労働派ニ口實ヲ與フルノ不利益ヲ生スヘキニ付此點ニ就テハ日本人一般ノ注意ヲ要スル所ナルヘシ聞ク所ニ依レハ日本ニハ政府ノ保護ヲ受ケ巨額ノ資本ヲ備ヘ專ラ海外出稼契約労働者ヲ取扱フ大會社有之趣ナルモ如斯會社ニ於テ取扱フ移民ハ素ヨリ契約労働者ト見做サルヘキモノニシテ米國ニ移住スルコト能ハサルヘキノミナラス亦移民其者ニ於テモ一切ノ收得舉テ會社ニ壟斷セラレ不利益尠カラス現ニ伊太利ニ於テモ曩ニ同様ノ會社アリテ專ラ同國中ノ貧瘦自活ニ堪ヘサルモノノミヲ驅ツテ米國ニ渡航セシメタルモ該移民ハ其所得ヲ舉テ會社ニ納入スルモ尙足ラサルカ如キ有様ニテ爲ニ非常ノ弊害ヲ生シ米國人ノ伊太利人ヲ嫌惡スルコト支那人ニ讓ラサルニ至レリ依テ余ハ自ラ伊太利ニ赴キ同國總理「クリスピイ」伯ニ直接談判シ該弊害ヲ匡正セシメタルコトアル旨語レリ

四、「マクコール」移民制限法案

適々當時歐洲諸邦殊ニ伊、獨兩國ヨリ卑賤ナル移民ノ渡航年々増加ノ傾向アリシヲ以テ一八九五年（明治二十八年）以來紐育ヲ中心トスル東部地方ニ於テ移民制限論漸ク喧シク一八九六年合衆國第五十四議會ニ於テ遂ニ「マサチューセツ」州選出下院議員「マクコール」ハ移民法改正案ヲ提出セリ同案ハ自國ノ文章ヲ讀ミ書キシ得ルモノニ非サレハ米國ニ移住スルコトヲ許サスト云フ

ニアリ而シテ同年五月委員會ニ於テ些少ノ修正ヲ加ヘタル「マクコール」案ハ二十六票ニ對スル百九十六票ノ多數ヲ以テ竟ニ下院ヲ通過セリ同修正案ニ依レハ米國ニ移住セントスル十六歳以上六十歳以下ノ男子ハ必ス自國ノ文章ヲ讀ミ書キシ得ルモノニ非サレハ上陸ヲ許可セスト云フニアリ其後本案ハ上院ヲ通過シタルモ大統領「クリーヴランド」ハ之ニ反對シ無筆ノ移民ナリトテ合衆國ニ渡來ノ後善良ノ市民トナリ合衆國ノ開發ヲ扶ケタルモノ多ケレハ該案ノ制限ハ嚴ニ過クルモノナリトシテ之ニ裁可ヲ與ヘサリキ

又一八九五年十二月大統領改選ニ際シ共和黨ノ發表シタル宣言書ヲ見ルニ「吾人ハ米國人民ノ品位ヲ維持シ低廉ナル勞力ヨリ生スル競争ニ對シ米國勞働者ノ給料ヲ擁護センカ爲移民法ヲ勵行シ無筆ノ輩ヲシテ合衆國ニ入ラサラシムルコトヲ希望ス」ト云フノ語アリ一八九六年「マッキンレー」カ大統領就任ノ際「我歸化法竝ニ移民法ニハ一層ノ改良ヲ加ヘ我國民ヲシテ今ヨリモ一層安全良好ニシテ高尚ノ民タラシムヘキコトヲ努メサルヘカラス若シ此地ニ來住シタル國民ニシテ無學陋劣ナルカ爲我政府及法律ノ眞價ヲ了解スルコト能ハス且其利益ヲ感知スルコト能ハサレハ遂ニハ我共和政治ノ存立ニ對シ危險ナルニ至ルヘキカ故ニ此地ニ來リテ我政體及法律ニ抵抗ヲ試ミントスル者ニ對シ吾人ハ迅速且堅固ニ吾人ノ門戸ヲ閉鎖セサルヘカラス」ト宣言セリ

五、「ヨング」移民制限法案

一八九七年（明治三十年）「アイダホ」州議會開會以來民主黨議員中ニハ從來同州北部金鑛山ニ使用セラルル外國勞働者放逐案ヲ提出シ該鑛山ノ使用者ヲ米國國籍ヲ有スル者ニ限ラントスルノ舉アリシ處同州北部「ショーショーニー」區選出議員「ヨング」ハ右ニ關スル一法案ヲ提出シ上下兩院通過ノ上二月十八日知事ノ裁可ヲ得テ法律トナレリ右法案ノ趣旨ハ米國或ハ外國法律ノ下ニ組織セラレタル會社ニシテ同州ニ於テ業務ヲ營ム者ニ對シ外國勞働者ノ使役ヲ禁セントスルモノナリ故ニ諸外國ノ勞働者ニシテ「アイダホ」州ニ在住シ正當ノ勞働ニ從事スルモノノ如キハ更ニ本法ノ關スル所ニアラス假令一個人トシテ米國農業者カ數十名ノ外國耕作人ヲ使役スルモ敢テ本法ノ問フ所ニ非ス本法ハ元歐洲ヨリ移住スル勞働者殊ニ伊國人葡國人ヲ排斥スルヲ以テ主眼トナスモノナルモ彼等ハ必要アラハ歸化シテ米國國籍ヲ取得シ得ヘキニ付若右法律ニシテ嚴格ニ勵行サレンカ本邦勞働者ニシテ「ユニオン・パシフィック」鐵道ノ工事ニ就働スル者等ハ直ニ解雇ノ憂目ヲ見サルヘカラサルカ如キ狀態ヲ招來セリ

六、「エベレット」港ニ於ケル排斥運動

同年四月ヨリ「シアトル」港ヲ距ル二十哩大北鐵道ノ終點ニシテ諸製造工場相次テ勃興シツツア

リシ「エベレット」港ニ於ケル木箱製造工場ニ就働シツツアリシ日本人労働者十八名果物入木箱千個ニ付六十仙ノ賃銀ニテ就働シツツアリシ處白人労働者ハ彼等ノ勞銀一弗二十仙ニ對シ右ハ大ナル脅威ナリトノ理由ノ下ニ之カ排斥ヲ企テ同地ヲ引上ケサレハ暴力ニ訴フヘシト威嚇シタルモ其後圓滿ナル解決ヲ見タル事アリ

七、桑港建築組合其他ノ排斥請願

同年十二月桑港建築業組合竝ニ其他労働組合ハ移民制限ニ付合衆國議會ニ請願書ヲ提出スルコトヲ決議セリ

右決議ノ中一ハ一般ノ移住民ニ關スルモノニシテ合衆國內ニ於テ目下其職業ヲ失ヘル労働者ノ數ハ百萬以上ニ達セルニモ不拘當國ニ渡來スル外國労働者ハ陸續トシテ絶エス既ニ國內ニ充溢セリ之等労働者ノ多クハ無智ノ賤民ニシテ米國ニ於テ一般ニ渴望スル所ノ教育アル移住民ハ誠ニ少シ且近時器械ノ進歩ト共ニ労働者ノ需要ハ益々減少スルヲ以テ熟練ナル職工ニシテ目下糊口ノ途ニ窮スル者亦尠カラス之ヲ以テ桑港建築業組合ハ諸般建築業ニ關係アルモノ竝ニ建築材料供給ノ諸組合ヲ代表シ茲ニ合衆國議會ニ對シ之等數多ノ失業者カ生活ノ途ヲ得ルニ至ル迄少ク共向後十ケ年間ハ總テノ移住民カ當國ニ來ルコトヲ停止スルコトヲ目的トスル議案ヲ通過スヘキコトヲ請願

スル旨ヲ記シ他ノ決議案ハ本邦労働者ニ關スルモノニシテ過去十ケ年間ニ於テ漸次加州内ニ移住セシ日本人ハ頗ル夥多ニシテ白人労働者ノ妨害トナルコト尠カラス目下州内ニアル日本人ノ數ハ一萬五千人ニシテ汽船ノ便アル毎ニ新來者アラサルハナク之等ハ加州内ニ於テ一日十仙乃至十仙以上ノ薄給ニ甘ンシテ労働ニ就ケリ彼等ハ大根畑果樹園及葡萄園等ノ労働口ヲ殆ト全ク占領シ尙進ンテ家内労働及各工場ノ労働口ニ浸入セリ彼等カ始メ加州ニ來ルトキハ何レモ學生ノ名義ヲ以テシ來着後ハ米國ニ對シテハ無報酬ニテ學校ニ入り又諸般ノ業務ニ從事スルノミナラス米國人カ享有スル所ノ諸般ノ便益ハ一トシテ享有セサルハナシ斯ク間斷ナク渡來スル日本移民ハ米國政府ニ對シテ何等ノ義務ヲモ負擔スルコトナクシテ生活上ノ利益ヲ加州住民ヨリ吸收スルモノナリト云ハサルヘカラス之ヲ以テ桑港ノ建築業組合ハ加州選出議員ニ向ヒ移住民ヲ制限スル所ノ方策ヲ採ランコトヲ希望スルモノナリト述ヘタリ

第七、契約移民ノ取締

一、移民取締ニ關スル西外務大臣ノ通牒

一八九八年（明治三十一年）二月十二日西外務大臣ハ警視總監、大阪、兵庫、和歌山、廣島、熊本各府縣知事ニ對シ大要左記通牒ヲ發シタリ

移民ト移民取扱人トノ間ニ締結スル契約書ニハ移民保護法施行細則第十條規定ノ如ク渡航地ニ於ケル周旋ノ方法ヲ記載スヘキ筈ノ處取扱人ニ依ル移民ニシテ北米合衆國へ渡航スルモノニ限リ右ニテハ同國契約労働者移住禁止ノ爲ノ米國移民法ニ抵觸スルノ嫌アルヲ以テ從來之ヲ省キ契約ヲ締結致居リタリ然ルニ客年九月和歌山縣厚生移民株式會社取扱北米合衆國行移民同國ヨリ契約労働移民ナリトテ上陸拒絶セラレタリ右ハ最初該移民カ横濱ニ於テ同港駐在ノ米國總領事ヨリ契約書ヲ携帯セルヲ以テ同國移民法ノ禁止スル契約労働者ナリト認メラレ乗船ヲ拒マレ一旦上陸シタルモ再ヒ便船ヲ更ヘ英領「ヴィクトリア」ヲ經テ桑港ニ赴キタルニ同港移民事務官ハ其横濱ニ於テ渡航ヲ差止メタル移民ト違ハサルモノナルコトヲ發見シ上陸ヲ拒絶シタル次第ニ有之當時在米我公館ニ於テハ可及的斡旋スル所アリシモ遂ニ本邦へ送還セラレタリ依テ爾來調査シタル處該移民ノ上陸拒絶ハ契約書ヲ基礎トスルノ外特ニ移民ニ於テ見セ金ヲ借入レテ彼國ノ法律ヲ潛ラント企テタル事情モ有之成程取扱人ニ依ル北米合衆國行移民ノ携帯セル現行契約書ハ表面同國移民法ニ抵觸スル廉無之カ如キモ今之カ爲同國政府へ公然抗議スル時ハ却テ好マシカラサル結果ヲ來シ米國政府ヲシテ益々我移民ニ對シ其取締ヲ嚴ニセシムルノ恐モ有之此際右抗議ヲ提出スルハ決シテ策ノ得タルモノニ非スト認メラレ且米國駐劄星公使ヨリモ右同

様ノ意見具申ノ次第モ有之ニ付同事件ニ付テハ別ニ國際問題トシテ同國政府へ開談ニ及ハサル義ニ有之就テハ今後モ我移民ニシテ右ノ如キ不幸ニ遭遇スルヤモ圖ラレサル處顧ミテ更ニ實際ノ情況ヲ考查スルニ取扱人ニ依ル同國行移民ハ現時ノ如ク契約ノ眼目タル渡航地ニ於ケル周旋ノ方法ヲ缺クニ於テハ渡航地ニ於テ移民ニ不利ナルノミナラス其就業ヲ得難キ爲如何ナル困難ニ陷ルヤモ保シ難ク又從來取扱人ニ依リ渡航シタル移民ハ僅ニ數百ニ過キササルニ徴スレハ將來其甚タ多キニ至ルコト無カルヘク今後移民取扱人ニ依ル同國行移民ハ可成渡航セシメサルコトニ致度ニ付移民取扱人へ自今同國行移民トハ契約ヲ取結ハサル様豫メ内諭アリタシ

二、小村外務次官ノ移民取締通牒ト在米星公使ノ意見

二月五日横濱港出帆米國行汽船「ベキン」號ニテ桑港へ渡航シタル本邦人二十四名ハ米國政府ヨリ右ハ公共ノ扶助ヲ受クルニ至ルヘシトノ故ヲ以テ上陸拒絶ノ上送還セラレタリ其後「ドーリック」號及「チャイナ」號ニテ渡米シタル本邦人三十五名モ亦送還ヲ命セラレタルカ右ハ在米星公使ノ斡旋ニテ米國政府ハ費府移民官ヲ桑港ニ特派シ再審ノ結果遂ニ上陸許可セラレタリ依テ三月二十九日小村外務次官ハ各地方長官及警視總監ニ對シ米國行一般旅行者トシテ旅券下附願出アルモノニ對シテハ渡航ノ目的其他ニ詐稱ノ廉ナキヤ篤ト取調ノ上名ヲ農業研究等ニ籍ルモ其實勞動

ノ爲渡航スルモノ若ハ米國移民法中渡米ヲ禁止シタルモノニ該當スル嫌アルモノニ對シテハ可成旅券ヲ下附セサル様訓令セリ

尙六月九日右事件ニ關シ在米星公使ヨリ昨一八九七年以來本邦ヨリ米國ニ渡來シタル移民ニ關シテハ及フ限り盡力ヲ爲シタルモ或ハ移民等ニ於テ米國ノ法律ヲ潛ラントシタルモノアリ或ハ契約勞働者ニ屬スルモノアリ或ハ今回ノ如ク前後不揃ノ申立ヲ爲シタルモノ等アリテ何時モ送還ノ不幸ニ遭遇シ僅ニ全體ノ幾分ノミ上陸ヲ許サレタルハ誠ニ遺憾トスル處ニ有之乍去米國殊ニ西部諸州ニ於テハ本邦人排斥ノ念強ク米國移民法ハ事實外國勞働者ノ渡來ヲ可成防遏スルノ精神ヲ以テ時々修正案ヲ議會ニ提出スルモノアル位ニテ太平洋岸諸州ニテハ本邦人ニ對シ殊ニ嚴密ニ移民法ヲ施行シ來リタレハ今後多數ノ本邦移民ヲ容ルルハ頗ル困難ニ有之加之我移民保護法ニ規定セル移民取扱人及保證人等ハ我移民ヲ困難ヨリ救助スルニ利便ナルモ勞働移民ノ渡來ヲ幫助シ又ハ之ヲ獎勵スルコトヲ得ス且米國ノ法律ノ精神ニ違背シ又從來ノ經驗ニ依ルニ本邦ヨリ渡來スルモノノ内多數ハ豫期ノ所得又ハ貯蓄ヲ得ルコトナキノミナラス其勞働賃銀ヲ徒費シ日々ノ生計ニサヘ差支フルモノ少カラサレハ前記諸種ノ反對ヲ侵シ多數ノ移民ヲ米國ニ誘致スルノ價值無ク彼等ヲ多ク入レントスルハ反テ本邦人排斥ノ熱ヲ高ムルニ過キサル旨申越タルニ付西外務大臣ハ各地方

長官ニ對シ右ノ趣通達スルト共ニ今後ハ充分ノ注意ヲ加ヘスシテ猥リニ移民ヲ米國ニ渡來セシメサル様取計フヘキ旨訓令セリ

三、「オリムピア」號事件

四月五日本邦移民二百四十四名汽船「オリムピア」號ニテ英領「ヴィクトリア」ニ來着シ其内合衆國ニ入ラントスルモノ前例ニヨリ該市駐在合衆國移民検査官ノ検査ヲ願出タルニ該地移民検査官ハ之ヲ埠頭ニ於テ検査セント云ヒ同汽船會社代理人ハ移民局ニ於テ之ヲ行ハンコトヲ請求シ兩者ノ間ニ意見ノ相違アリ其結果三十餘名ニ對シ入國證ヲ與ヘタルモ其他ハ何レモ拒絕セラレ殊ニ移民會社ノ印章ヲ捺印シタル旅券ヲ所持シタル移民ハ悉ク拒絕セラレタリ依テ在米星公使ハ在晚香港清水領事ノ請求ニ基キ松井書記官ヲ合衆國大藏省ニ派シテ折衝セシメタル結果大藏省當局ヨリ在「ヴィクトリア」移民検査官ニ對シ現ニ「ヴィクトリア」ニ停留セラレ居ル移民ニシテ移民検査官ニ於テ入國ヲ許シ然ルヘシト思考スルモノニ對シテハ直ニ入國證ヲ交付スヘク且右移民中若干名ノ携帯セシ旅券ニ本邦移民會社ノ印章ヲ押捺セルヲ以テ契約移民ト見做スハ不當ニ付他ニ反證ナキ以上ハ之等ノ移民ノ入國ヲ拒ムコトヲ得サル旨訓令ヲ發シ本件解決ヲ見タリ茲ニ於テ西外務大臣ハ重ネテ各地方長官ニ對シ曩ニ二月十二日、三月二十九日及六月九日附米國渡航本邦人

ノ旅券下附ニ關スル訓令ノ趣旨ヲ繰返シ自然ノ需給ニ依リ移民ノ出ツルハ強テ之ヲ防遏スルニ及ハサルモ決シテ米國行移民ヲ獎勵セサルハ勿論目的地ノ事情ニ通セスシテ徒ラニ在外知人ノ勸誘ヲ信シテ空シク勞働者請負外國人ノ如キ中間博利者流ノ餌トナルカ如キコト等無之様移民ノ渡航ヲ取締ルヘキ旨竝ニ移民取扱人ニ依ル米國行移民ハ米國移民法違反ト認メラルル嫌有之同國移民検査官モ右様解釋スルノ傾アル模様ニ付該移民ヲ渡來セシメサルカ爲米國行移民ニ付テ移民ト移民取扱人トノ間ニ契約ヲ取結ハサル様諭示スヘキ旨訓令セリ

四、旅順丸事件

五月二十七日日本郵船旅順丸英領「ヴィクトリア」ニ寄港シ本邦移民二百十四名ヲ上陸セシメ直ニ「シアトル」港ニ向ケ航行シタル處右移民中合衆國ヘ轉入志望ノモノ四五十名アリ在「ヴィクトリア」合衆國移民事務官ニ入國證ノ附與ヲ願出タルニ同事務官ハ之ヲ拒絕シ移民ハ同國目的港ニ到リテ上陸検査ヲ受クヘシト命セラレタリ依テ該移民ハ桑港又ハ其他目的地ニ赴カンカ爲汽船會社ニ就キ同地行乗船切符ヲ請求スルモ入國證ナキ爲賣渡サス一同當惑シ居ル旨同月三十日在晚香港帝國領事館ヘ通報アリタルニ付清水二等領事ハ直ニ在「ヴィクトリア」移民事務官ニ入國證附與ヲ拒絕シタル理由ヲ糾シタルニ同事務官ヲ晚香港「ヴィクトリア」等ニ駐在セシムルハ合衆

國政府ト特約アル加奈陀太平洋鐵道會社ノ汽船ニテ該地ニ渡來シ合衆國ニ轉入セントスル移民ヲ検査スルノ目的ナルニ漸次同國政府ト特約ナキ北太平洋汽船會社等ノ汽船ニテ該地ニ渡來スルモノマテ検査スルノ慣例ヲ開キ之カ爲諸種ノ弊害ト困難トヲ惹起スルニ付テハ自今特約以外ノ諸會社ノ汽船殊ニ合衆國ノ港ニ進行スル汽船ニテ渡來スル移民ハ「ヴィクトリア」又ハ晚香港ニテ検査スルコトナク合衆國內港ニ於テ検査ヲ受ケシムヘキ旨先般在華府移民局ヨリノ訓令アリタルヨリ今回右訓令ニ從ヒ處置シタル趣ナリシニ付清水領事ハ從來ノ慣例ヲ變更スルニハ相當ノ豫告アルコト至當ニシテ旅順丸ニテ渡來ノ移民ハ毫モ之ヲ知ラス從前ノ通「ヴィクトリア」又ハ晚香港ニテ入國證ヲ受領シ得ヘシト豫期シテ渡航シタルモノナレハ本件ニ付テハ特別處置アラコト當然ナリト懇ニ談判シ種々盡力ノ結果漸ク該移民ハ入國證ヲ得合衆國ニ轉入シタリ

第八、排日的諸法案ノ出現

一、日本移民渡來ノ趨勢

本邦移民ノ渡來漸次増加スルニ從ヒ米國ニ於ケル排日運動モ益々熾烈トナリ來レルハ明カニシテ單純ナル民間ノ排日的論議ヨリ次第ニ官邊乃至各州議會等行政立法ノ兩方面ニ浸潤シ行キタルノ觀アリ右ハ曩ニ學童問題ノ前兆及排日立法ノ前驅アリ排日運動カ漸ク組織的ニ其根底ヲ築キ上ケ

ツツアル情勢ヲ示スモノト見ルヲ得ヘシ左記ハ當時ニ於ケル着米一般移民及本邦人ノ渡米ノ趨勢ヲ示スモノナリ

年 度	着米移民總數
一八九三年 (自一八九二年七月至一八九三年六月以下做之)	四三九、七三〇 ^八
一八九四年	二八五、六三一
一八九五年	二五八、五三六
一八九六年	三四三、二六七
一八九七年	二三〇、八三二
一八九七年度上半期	一〇七、六〇八
一八九八年度上半期	九九、一七五

而シテ一八九四年度ヨリ一八九七年度ニ至ル四ケ年間平均渡米移民總數二十七萬九千五百六十六人ヲ一八八四年度ヨリ一八九三年度ニ至ル十ケ年平均四十七萬二千六十三人ニ比スレハ殆ト半數ニ減セリ

次ニ本邦移民ノ渡米數ヲ見ルニ左ノ如シ

年 度	渡米本邦移民數
一八九四年	一、九三一 ^八
一八九五年	一、一五〇
一八九六年	一、一一〇
一八九七年	一、五二六
一八九七年度上半期	六五九
一八九八年度上半期	八八八

即チ本邦移民ハ一八九四年度ヨリ一八九六年度迄次第ニ減少セシカ一八九七年度及一八九八年度上半期ハ何レモ前年度ニ比シ米國來着一般外國移民數ノ減少トハ反對ニ大イニ増加セリ

右渡米本邦移民中加奈陀領ヲ經由スルモノ尠カラス「ブリテイッシュ・コロムビア」ヨリ轉入セシモノ左ノ如シ

年 度	轉 入 數	渡米本邦移民總數ニ對スル轉入數ノ割合
一八九四年	六八七	三割五分餘
一八九五年	六七二	五割八分餘

茲ニ特ニ注意スヘキハ漸次本邦移民カ直接米國ニ渡來スルノ難キヲ覺リ一先ツ「ブリティッシュ・コロムビア」ニ渡リ其處ヨリ機ヲ見テ米國ニ潛入セントスルニ至レル事實ナリ

二、東洋移民排斥ニ關スル「ラムバード」法案

一八九九年（明治三十二年）一月十六日華州議會ニ下院議員「ラムバード」ヨリ支那人ヲ街上ニ使用スルコト竝ニ公共事業ニ使用スルコトヲ禁止セムトスル法案提出セラレ委員附託トナレリ然ルニ委員會ニ於テハ之ヲ修正シ其範圍ヲ擴張シ日本人ヲモ包含セシムルコトトシ第二讀會ヲ終リ將ニ第三讀會ニ附議セラルル虞アリタルニ付在「タコマ」林二等領事ハ二月二十日「オリムピア」ニ出張シ知事「ローガス」ニ面會シ右法案ノ不條理ナル所以及該案ニシテ若シ通過シ法律トナルニ至ラハ日米兩國ノ親交上ニ尠カラサル障害ヲ與フルモノト思考スルニ付豫メ議員ヲシテ反省セシムル様取計ハレ度旨依頼シ次テ該案提出者「ラムバード」ニ面會シ其意見ヲ交換セルニ該法案ハ支那労働者ニ適用スルノ目的ヲ以テ提出シタルモノニシテ委員會ニ於ケル修正ハ其素志ニアラサリシ旨答ヘタルニ依リ林領事ハ同氏ニ對シ委員會ノ修正ハ本提案提出者ノ目的トスル所ニアラサル旨議場ニ於テ聲明セラレ以テ日本労働者ナル文字ヲ削除セラルル様盡力アリタシト依頼シ夫レヨリ議長初メ有力ナル議員八名ニ面會シ該案ノ正理ニ反スル理由竝ニ目下「ビューゼット」

海峽地方ト日本國トノ貿易ハ日ヲ追フテ盛トナルノ情勢ニアル今日本邦人ノ感情ヲ害スルコト甚シキ前記法案ノ通過ヲ見ルカ如キハ面白カラス且若之カ假令法律トナルモ目下ノ處適用セラルヘキ日本人ハ一人モナキヲ以テ斯ル不必要ナル法律ヲ作り相互ノ親交ヲ害スルハ得策ニアラサルヘシト陳述セシニ孰レモ右法案ハ不條理ノモノト思考スルニ依リ必ス抹殺スヘシト約束シタリ依テ尙念ノ爲林領事ハ上院議員數名ニ對シテモ右ノ如キ趣旨ヲ述ヘ其意見ヲ求メタルニ皆同案ニ反對ノ意ヲ表明セリ

二月二十七日第三讀會ニ於テ討議ヲ用ヒス將ニ通過セントセシ際原案提出者「ラムバード」ハ林領事ニ對スル約束通り修正ノ爲再ヒ委員會ニ附託スヘキ旨申立テ其結果修正委員會ニ於テ日本人労働者ナル文字ハ削除セラレタリ

右事件ヲ報告スルト共ニ林領事ハ青木外務大臣ニ對シ一八九八年以來本邦労働者ノ華州地方ニ出稼スルモノ漸ク多キヲ加ヘ且加州ヘ志ス者ニシテ「タコマ」港經由ノモノ増加シ今後モ猶益々増加ノ模様モアリ漸次本邦労働者問題ハ華州人ノ注意ヲ惹ク所トナリ又一方ニ於テハ白人労働者ノ本邦人ノ爲漸次其領分ヲ蠶食サルルヲ以テ機會アラハ之カ排斥運動ヲ試ミント窺ヒツツアリ現ニ輓近「ボートランド」ノ近傍ニ於テ白人及本邦労働者間ニ衝突起リ幸ヒ官憲ノ配慮ニ依リ事大ニ

至ラスシテ沈靜ニ歸シタリト雖之本邦勞働者排斥熱ノ一現象ニ外ナラス斯ル折柄「ブリテイッシュ・コロムビア」ニ於テモ日本及支那勞働者ノ排斥法案提出セラレタルヲ以テ「タコマ」地方ノ白人勞働者ハ此機乘スヘシトナシテ運動ヲナシタル結果累ヲ本邦勞働者ニ及ホシタルモノナリ兎ニ角本邦勞働者今後多數渡來スルニ從ヒ種々ノ紛議起ルヘキハ免レサル次第ナルヲ以テ本邦當局ニ於テモ出稼者ニ關シ充分ノ取締ヲ爲スコト必要ナルヘキ旨ノ意見ヲ上申セリ

三、日本移民排斥ニ關スル「コウワン」決議案

二月十日加州議會下院議員「コウワン」ハ合衆國議會カ本邦勞働者商人及婦女ノ渡來ヲ禁止スヘキ法律ノ制定ニ努力セラレンコトヲ要求ストノ趣旨ノ決議ヲ提出シ同日下院ヲ通過シ十一日上院ニ於テ委員附託トナレリ其後同委員會ハ之ヲ採用スヘキモノト決シ其旨三月十三日上院ニ報告シタルモ其儘會期不足ノ爲審議未了ニ終レリ

第九、米國移民事務官「ライス」ノ來朝ト其後ノ排日運動

一、「ライス」ノ來朝

一八九九年（明治三十二年）二月米國移民事務官「ダブルユー・エム・ライス」本邦移民關係法制竝ニ其實際ノ取扱振調査及移民統計類蒐集等ノ目的ヲ以テ來朝シ和歌山、兵庫、廣島、山口、熊本

ノ各縣ヘモ出張シ親シク之等調査事項ニ付取調ヲ行ヒタリ而シテ四月十五日歸米シタルモ直ニ華府ニ赴カス着桑後同氏ノ任地ナル晚香坡ニ歸任シ復命書起草中ナリシ處偶々四月末合衆國移民監察官「ロバート・ワッチョン」太平洋沿岸地方移民事務取扱振視察ノ途次晚香坡ニ來リ「タコマ」竝ニ同地ノ移民検査官ノ事務取扱振力寛大ニ失セルヲ督責スル所アリタル由ニテ検査官等ハ俄然検査ヲ嚴密ニシ現ニ四月二十五日晚香坡入港「エムプレス・オブ・チャイナ」號ニテ渡航ノ日本移民中右監察官巡視前ニ米國ニ向ケ出發シタルモノハ何レモ無事入國ヲ許サレタルモ四月二十九日「ボートランド」ヘ向ケ出發シタル五十八名ノモノハ國境「スーマス」村ニ至リ一人ヲ除ク外全部契約勞働者トシテ入國ヲ拒絕セラレ晚香坡ニ送還セラレタリ

尙「ライス」ハ在晚香坡清水ニ等領事ニ對シ日本ハ土地狹小人口超過ニ苦ムヨリ其移出地ヲ求ムルハ止ムヲ得サルノ必要之アルヘキモ右ニ對シテハ北海道臺灣等ヲ開拓シテ移植ノ途ヲ立ツルコト可然ト語リ如何ニモ米國ヲ以テ其移住地トセラルルハ迷惑至極ニ付嚴ニ之ヲ制限スルハ止ムヲ得サルノ急務ナリト考量スル旨ヲ暗ニ仄カセリ

二、「タコマ」號事件

「タコマ」ニ於ケル排日運動ハ其後漸次旺盛トナリ勞働派ノ機關新聞「タコマ・デイリー・ニュー

ス」紙ハ其論說欄ニ於テ多數ノ日本人ノ渡來ハ白人勞働者ノ仕事ヲ奪ヒ困難ナル事態ヲ惹起スル虞アレハ日本勞働者ノ渡來ニ對シテモ支那人同様ノ制限法ヲ制定スルコト急務ナリト論スルニ至リシ處一八九九年三月二十六日「タコマ」入港ノ「タコマ」號ハ本邦勞働者三百四十四名ヲ搭載シ入港シタル處移民検査官「ウオーカー」ハ本邦人ノ通譯ヲ通シ形式的ノ尋問ヲ爲シ其携帶金ヲ檢スルノミニテ「タコマ」上陸ノモノ百八十三名ヲ僅カ二時間ニテ検査ヲ了シ其寛大ナルコト桑港ノ其ニ比シ大差アリ尤モ我勞働者モ皆健康者ニシテ其衣服等モ改善セラレ勞働移民トシテハ先ツ上等ノ方ニシテ船中ニ出張セル諸官吏モ之ヲ嫌忌スルノ念ナキノミナラス却テ評判宜シク且右勞働者上陸ノ際ハ「タコマ」在留本邦人經營ニ係ル宿屋ヨリ特ニ仕立テタル幌付荷馬車ニ乗込マセ宿屋迄連來レルモノアリ之多人數市中ヲ群行スルトキハ益々人目ヲ惹クノ恐アルヲ以テ成ル丈人目ニ掛カラサル様ニトノ配慮ニ出テタルモノナリ然ルニ當日ハ日曜ニシテ天氣晴朗且ハ本邦人多數渡來セシ趣市中ニ喧傳セラレタルヲ以テ之ヲ見ントスル老若男女波止場ニ蜩集シ頗ル雜踏セシ處俄然翌日ノ「タコマ・レッヂャー」紙ハ論說ヲ掲ケ東方ヨリハ善良ナル home seeker タル移民來ルモ西方ヨリハ單ニ work seeker ニ過キサル移民多數入込ミ現ニ昨日モ「タコマ」號ニテ日本勞働者三百四十四名渡來セリ彼等ハ契約勞働者タルノ證據ナキ爲各自三十弗ノ見セ金ヲ示シテ上陸

セルカ彼等ハ支那勞働者ト實質上何等ノ逕庭ナク低廉ナル勞銀ヲ以テ白人ノ仕事ヲ奪フコトニ於テ何等異ルコトナシ彼等ハ白人ノ移住者ト異リ家族ヲ連レ來ラス定住ノ意志ナク腰ヲ落付ケテ資源ノ開拓者タルノ風無ク公共ノ機關ヲ維持スル爲ノ税金ヲ支拂ハサルナリ而シテ貯金ハ擧ケテ故國ニ送金スルノミト論シタリ

三、西部勞働同盟大會

五月八日「ロッキー」山以西合衆國及加奈陀領諸州ノ勞働者諸團體ヨリ成レル西部勞働同盟 (The Western Labour Union) 、「ユタ」州「ソート・レーク・シティ」ニ於テ其第二次年會ヲ開キ五十八個ノ諸團體ヲ代表セル五十九人ノ委員ハ同日ヨリ十五日迄連日會議ヲ催シ種々勞働者ノ利益ヲ保護スヘキ方法等ヲ議決セル處本邦勞働者ノ入米ニ關シ左ノ如キ決議ヲ通過セリ

近時日刊新聞紙ノ非難セル西部諸鐵道會社カ合衆國法律ノ規定ニ違反シ日本及布哇群島ヨリ日本人勞働者ヲ輸入シ之ニ僅ニ糊口ヲ支フルニ足ル少額ノ日給タル一弗ヲ給シテ鐵道建設ノ勞役ニ服セシムルハ米國勞働者ノ位置ヲ貶スニ至ルノ恐アルノミナラス今後モ永續スルニ於テハ米國勞働者ハ生活ノ資タル天與ノ權利ヲ失フニ至ルヘキヲ以テ茲ニ會合シタル當西部勞働同盟ハ極力右西部鐵道會社ノ處置ヲ難シ併テ當同盟ノ書記ヲシテ本件ノ事情ヲ具陳シタル公開狀ヲ

認メシメ之ヲ華府ノ國務長官ニ送呈シテ速ニ日本勞働者ノ入米ヲ停止スルノ處置ヲ採ルコトヲ請求セシムルコトヲ決議ス

第十、桑港以北太平洋沿岸ニ於ケル日本移民ノ生活

一八九九年（明治三十二年）四月在「タコマ」領事館「シアトル」分館主任染谷外務書記生ヨリ都築外務次官宛桑港以北太平洋沿岸地方ニ在住スル本邦移民ノ現況ニ關シ大要左ノ通報アリタル處右ハ當時ノ在米本邦移民ノ生活狀況ヲ知ルニ當リ好個ノ資料ト認メラルルニ付左ニ之ヲ收録スヘシ

一、日本移民ノ渡航經路

一八九八年桑港以北「ビューゼット」海峽地方ニ至ル一帯ノ地ヘ來着シタル移民ハ其筋ノ調査ニ依レハ合計二千三百三十三人ニシテ其地方別ハ左ノ如シ

地名	自一月間 至六月間	自七月間 至十二月間	合計 一ケ年間	入國拒絶
華州				
「ビューゼット」海峽地	一三五	五〇〇	六三五	九
「オレゴン」州	一三二	二七四	四〇六	一
「ボートランド」港				

「ブリタイッシュ・コロムビア」州ヨリ轉入	一、〇一二	二八〇	一、二九二	一
計	一、二七九	一、〇五四	二、三三三	九

之等ノ移民中ニハ元ヨリ新渡來者ト再渡來者トノ區別アルヘシト雖モ一八九八年ハ「ブリタイッシュ・コロムビア」州「フレーザ」河例外ノ不漁ニシテ豫テ當地地方ヨリ同地ノ漁業ヲ目的ニ出稼シタル我移民ハ漁期終結スルモ歸國ノ旅費ニサヘ差支フルモノアリ到底正規ノ手續ヲ經テ當國ヘ入込ミ難キ爲中ニハ數人隊ヲナシ小舟ニ乗シ密ニ「シアトル」港地方ヘ轉入シタルモノ二百餘名アリ外ニ同港着ノ日本郵船會社汽船乗組員ニシテ同港碇泊中脱船シタルモノ凡ソ四十名アレハ前記ノ二千三百三十三名ハ全部新渡來者ト見テ大過ナカルヘシ而シテ同年間華州及「オレゴン」州ニ上陸シタル本邦移民ノ數ハ密航者及脱船者ヲ通算シ大約千六百名ト見テ差支ナキカ如シ

二、日本移民ノ職業

之等ノ移民中毎年英領地ト米國トノ間ヲ往來スルモノノ過半ハ夏期英領「フレーザ」河ノ漁業ニ從事シ冬期ハ華州地方ニ來リテ農家又ハ鋸材工場等ノ人足ニ雇ハレ勞働スル所ノモノニシテ其數凡ソ四百名アリ新渡來者ノ從事スル職業ハ凡ソ左ノ數種トス

(1) 婢僕即チ家内勞働者 此種ノ勞働者ハ學術修業等ノ目的ヲ以テ渡米シタル書生風ノモノニ

シテ力役ニ堪ヘサルモノ

- (2) 西洋料理店ノ雇人トシテ住込ムモノ 華州地方ニハ白人労働者ヲ相手ニ營業スル日本人料理店尠カラス故ニ日本ヨリ新來ノ移民ニシテ學術修業ノ心掛ナク且又過激ノ労働ニ從事スルヲ好マサルモノハ多ク之等ノ料理店ニ住込ミ皿洗ヒ其他ノ雜役ヨリ順次料理法ヲ習得スルモノ

- (3) 農家又ハ材木挽割所ノ人夫トナルモノ 此種ノ移民ハ同郷人又ハ親戚ナトノ招キニ應ジサレル者多シ

- (4) 鐵道工夫 之ハ力役ニ堪ヘル純粹ノ出稼労働者ナリ

之等ノ労働者中第一種即チ婢僕ノ給料ハ新渡來者ニシテ言語不通且米國ノ事情ニ慣レサル者ハ主人方ニテ食事及部屋ヲ給シ最下等月五弗普通七、八弗又一二年米國ニ居住シ少シク英語及家事向ノ事ニ通スルモノ月十四五弗料理其他米國ノ事業ニ通シ且英語ヲ一通リ解スルモノ月二十弗乃至二十五弗トス

第二種即チ料理店ニ働ク者ハ皿洗ヒ其他店內ノ雜役ニ従事スルモノ月七、八弗給仕人月十五弗乃至二十五弗料理人月二十五弗乃至四十弗トス

第三種農家雇人見習ハ自炊ニテ月十二三弗熟練ノモノ月十七八弗鋸材場雇人足中雜役ニ就クモノ

自炊ニテ一日一弗十仙同手鋸ヲ以テ材木ヲ切ルモノ一弗二十仙其他技術熟達ノモノハ一日一弗四十仙ヲ受クルニ至ル

第四種鐵道工夫ハ普通自炊ニテ一日一弗ナリ尤モ會社ト其職業ノ難易トニ依リ一日一弗二十五仙ヲ受クルモノアリ而シテ此種ノ労働者中第一種ニ屬スルモノハ華州及「オレゴン」州ニ互リ凡ソ三百名第二種ニ屬スルモノ同上凡ソ四百五十名第三種ノモノ凡ソ二百四五十名第四種ノモノハ華州「オレゴン」「アイダホ」「モンタナ」「ワイオーミング」ノ諸州ニ互リ目下二千五六百名アリ之ヲ昨年六七月ニ比スレハ倍數ノ多キニ達シタリ日本人カ「シアトル」地方ノ鐵道工事ニ使用セララルニ至リタルハ「アイダホ」州ニ於テ數年間使用セラレ頗ル好評ヲ博シタルニ起因ス而シテ一昨年ヨリ昨年ニカケ「シアトル」地方一般「アラスカ」金鑛熱ノ爲ニ人心浮立チ在來ノ賃銀ニ安ンスルモノナク動モスレハ労働者離散ノ傾向アリ況ヤ鐵道工夫ノ如キ低廉ナル賃銀ニ甘ンスルモノ極メテ尠ク「シアトル」地方ノ鐵道會社ハ皆人夫ノ缺乏ニ窮シ一時其東部地方ニ使役シタル支那人ヲ華州海岸各地ヘ輸入シ僅ニ其工事ヲ繼續シタルコトアルモ元來「シアトル」地方一般米人間ニ支那人ヲ嫌惡スルノ念熾ニシテ永久之ヲ使役セントセハ反テ鐵道會社ニトリ不利益ナルノミナラス支那人ハ其性質遲鈍工事モ亦割合ニ涉ラサルト支那人ノ常習トシテ毎日仕事先ニテ米ヲ炊

キ晝食ヲ爲ス等餘分ノ時間ヲ消費スルノ傾向アリ故ニ日本勞働者ハ支那人ニ比シ一日給料五仙高キニモ拘ラス華州「タコマ」港ヨリ大陸ヲ横斷スル北太平洋鐵道會社ハ昨年五月ヨリ又「シアトル」港ヲ終點トスル大北鐵道會社ハ同七月ヨリ次第第二日本人ヲ使用スルニ至レリ工夫ノ數ハ日々増減アリ精確ナル調査ヲ遂ケ難シト雖モ「アイダホ」及「ワイオーミング」州ニ互リ日本工夫凡ソ五百人「オレゴン」全州ニ八九百人華州及「モンタナ」州ニ互リ北太平洋鐵道會社線ニ八百餘名大北鐵道會社線ニ三百四五十名「シアトル・エンド・インターナショナル」鐵道會社線ニ凡ソ二十名都合二千五六百名ノ日本工夫華州附近一帶ニ散在セルモノノ如シ而シテ前記ノ北太平洋鐵道及大北鐵道ノ如キハ各一千餘名ノ日本工夫ヲ需用セントスル計畫モアリ將來日本工夫ハ益々増加ノ傾向アリ

三、日本勞働者ノ請負

「シアトル」地方ニアル諸鐵道會社日本工夫請負人ハ五六組アルモ左ニ其主ナル請負人ノ口錢其他勞働者ヨリ徵收スル費用ノ大要ヲ列記スヘシ

(1) 北太平洋鐵道會社請負人ハ米人「レミントン」及本邦人熊本一二三外一名ノ組合ニシテ普通ノ工夫一日一弗十仙ノ給料ヨリ十仙ヲ請負人ノ口錢トシテ徵收スルヲ以テ一日勞働者ノ實收金

一弗トス而シテ月末ニ至リ毎月一名ヨリ一弗ヲ通辯及事務所費トシテ徵收ス但シ工夫需用ノ物品ハ其地方ノ最寄ニテ直接買入レシメ代金ハ毎月二十日ニ拂渡スヘキ前月分賃銀中ヨリ控除ス

(2) 「オレゴン・ショート」鐵道ニ於テハ同シク各勞働者ハ其日給ヨリ一日十仙ヲ請負人ノ口錢トシ又毎月一弗ヲ通辯及事務所費トシ差引カルルノミナラス此鐵道ニアリテハ別ニ毎月五十仙ヲ病院費トシテ徵收シ又最初働キ始ムル際五弗ヲ病院維持費トシテ賦課スト云フ請負人ハ米人「レミントン」ニシテ手代ハ熊本一二三ナリ

(3) 「オレゴン」鐵道航海會社線ノ日本工夫取扱人ハ伴新三郎ニシテ工夫ハ賃錢一日一弗ノ内ヨリ手數料トシテ五仙又毎月病院費トシテ五十仙ヲ徵收ス但シ日用品ハ本人ノ希望ニ依リ取扱人購送ス

(4) 大北鐵道會社線ハ本邦人高橋轍夫外三名ノ聯合請負ニシテ普通工夫一日一弗十仙ノ賃錢中ヨリ口錢トシテ十仙又病院費トシテ毎月五十仙ヲ差引ク但シ工夫ノ日用品ハ總テ請負人ニ於テ購送ス

抑モ「シアトル」附近ニ於テ鐵道ノ改修其他ノ工事ニ從事スルモノハ他ノ勞働口ニ比シ賃銀安シ而

シテ白人ノ鐵道工夫ハ主ニ慄慄無頼ノ徒ニシテ懷中ニ金ナケレハ出テ働キ金ヲ得レハ即チ市街地ニ至リ飲酒賭博ニ耽リ其統御方至ツテ面倒ナレ共日本人ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ使用スルニ於テハ勤勉ニシテ工事反ツテ進捗スルノミナラス賃銀ノ點ニ於テモ白人勞働者ニ比シ三十五仙乃至四十仙ノ差アリ今假リニ彼我勞働者ノ賃銀ノ差ヲ三十五仙ト定メ毎月勞働日數ヲ二十五トスレハ北太平洋鐵道會社ノ如キハ現ニ日本工夫八百名ヲ使役スルカ爲一ヶ月ノ賃銀ニ於テ七千弗半期間ニ四萬二千弗ノ巨額ヲ削減スルヲ得レハ一旦日本工夫ヲ使用シタル各會社ハ營利上益々其數ヲ増サントスルハ甚タ見易キノ理ナリ併シ乍ラ米國ニ數年間滞在シタル本邦勞働者ハ兎角白人工夫等ノ惡風ニ感染シ居リ動モスレハ組頭ノ命ニ反抗シ或ハ同盟罷業ノ舉ニ出ツルモノ尠カラサレハ近來各請負人ハ互ニ新渡來者ノ吸收ニ努メ日本ヨリ移民ヲ搭載セル汽船ノ來着スルヲ聞カハ豫メ其地方日本人經營旅館ト結托シ之ヲ自分ノ請負區内ニ誘引シ甚シキニ至リテハ毎年冬期鐵道工事落着ノ秋ヲ待チ腹心ノ輩ニ旅費ヲ給シ之ヲ日本ヘ送り頻リニ之等地方出稼ノ有利ナルコトヲ吹聴シテ壯丁ヲ募リ翌年鐵道工事開始期ニ先立チ渡米セシムルノ方法ヲ講シ巧ミニ新渡來者ヲ自己ノ支配地内ニ誘致スルモノアリ殊ニ本年ノ如キハ諸鐵道會社舉テ一時ニ多數ノ日本工夫ヲ得ント望ミタルカ爲昨冬以來彼等ノ奸策到ラサルナシ故ニ染谷分館主任ハ時々其心得違ヒテ面責シ日本人

夫ノ募集ハ米國ヘ上陸シタルモノノ内ニ限ルヘシト云フト雖モ彼等ノ頑迷ナル陽ニ服從ノ態ヲ裝ヒ陰ニ人ヲ英領地ニ派シ或ハ入國ノ資金ヲ貸與シ或ハ旅費ヲ前貸スルコト尠カラス其結果トシテ同地方ニ來着スル日本移民俄ニ其數ヲ増シ大イニ同地方ノ人心ヲ警醒セシメ遂ニ「タコマ」「ポートランド」及「シアトル」ノ別ナク日本移民トアレハ忽チ其筋ノ注意ヲ惹キ至ル所其入國又ハ上陸ニ關シ紛擾ヲ免レサルコトナレリ

四、「シアトル」地方日本移民ト其生活

一八九八年（明治三十一年）一月ヨリ同六月ニ至ル六ヶ月間「シアトル」ヘ來着シタル移民ト一八九九年三月「タコマ」港ニ於テ日本移民ニ關シ苦情ヲ生シタル頃ヨリ四月十五日「タコマ」港着ノ日本移民數トヲ對照スレハ次ノ如シ

地 方 別

明治三十一年上半期

自明治三十二年三月一日
至 同 四月十五日

華州「ビューゼット」海峽地方

一三五

五三四

「オレゴン」州「ポートランド」

一三二

三二〇

「ブリティッシュ・コロムビア」經由

一、〇一二

四五〇（註）

計

一、二七九

一、三〇四

(註) 右ハ英領「グイクトリア」港ニ來着シタル日本移民見積數ニシテ同地方ヲ經由米國ニ入込ミタル數ニ非ラス併シ乍ラ其半數以上ハ確ニ米國ニ轉入シタルモノト認メラル

之ニ依テ見レハ一八九九年三月以來四月十五日ニ至ル僅々一ヶ月半ノ間ニ「シアトル」地方ニ到着セル我移民ノ數ハ殆ト前年上半期ノ移民數ニ等シキ有様ナリ故ニ此勢ニシテ進マハ同年「シアトル」地方へ來着スヘキ日本移民ハ幾千ノ多キニ達スヘク米國移民官カ其理由ヲ知ラント欲シタルハ誠ニ已ムヲ得サルノ數ナリキ且事實上「ブリテイッシュ・コロムビア」着移民ノ過半ハ北太平洋鐵道會社及大北鐵道會社工夫ニ變シ「ボートランド」着ノ分ハ其八九分迄「オレゴン・シヨート」鐵道ノ人夫ニ化セリ之米國移民官ヲシテ日本ヨリ來着スル新移民中契約移民又ハ之ニ類似スル不正移民ノ混入セサルヤヲ疑ハシムルニ至リシ最大原因ナルヘシ又當地方ニ於ケル鐵道工事ナルモノハ日本内地ノ如ク四季ヲ通シテ永續スルモノニ非ラス毎年三月下旬又ハ四月上旬ヨリ其事ニ着手シ凡ソ十月下旬ニ終リ十一月ヨリ翌年三月ニ至ル凡ソ五ヶ月間ハ夏期ニ比シ工夫ノ數ヲ半減スルヲ例トス而シテ昨年北太平洋鐵道會社及大北鐵道會社線ノ如キ其使用セル日本人工夫ハ稍々試驗的ナリシト白人又ハ支那人ト混用セラレタルカ爲冬期ニ至リ白人及支那人ノ幾分ハ解傭セラレタルモ日本人ハ幸ニ其職ヲ保ツ事ヲ得タリ然レ共一八九九年各鐵道會社ニ於テ日本人ヲ使

用スルノ狀況ヲ見ルニ次第ニ支那人其他ノ勞働者ヲ驅逐シ日本人ヲシテ漸次其地位ヲ占領セシムルノ有様ナレハ若シ一八九九年秋季ニ至リ不幸ニモ例年ノ如ク其半數ヲ解傭セラルルカ如キ事アラハ彼等ハ如何ニシテ此五ヶ月ノ長日月ヲ生活セントスルカ現ニ一八九八年大北鐵道會社ノ實例ニ徴スルモ同會社日本工夫請負人某ハ解傭後働キ口ナク又既ニ貯金ヲ消費シ盡シ其日ノ糊口ニサヘ差支ヘタル我カ勞働者百餘名ヲ收容シ「シアトル」ニ於テ私費ヲ以テ一家屋ヲ借受ケ食糧ヲ供シ僅ニ本年鐵道工事ノ開始期迄繼キヲ付カシメタル事アリ昨一八九八年ノ如キ僥倖ナル年柄ト雖斯ノ如キ不幸ヲ免レス況ンヤ一八九九年ノ如ク多數ノ移民一時ニ鐵道工夫トナリ「シアトル」地方へ住込ムニ於テハ年末ニ至リ果シテ如何ナル狀態ニ陷ルヘキカ推知スルニ難カラサルナリ且鐵道工夫ノ過半ハ市街地ニ在リテ家内勞働ニ從事スルモノトハ異リ米國人ノ言語習慣ニ習熟スル機會少シ故ニ此種ノ移民ニシテ工事中止ノ爲解傭セラルルトキハ五ヶ月ノ長期ニ亘リ他ニ其勞働口ヲ需ムル事甚タ難ク萬一冬期繼續シテ鐵道工事ニ從事スルモノアラハ誠ニ僥倖ノミ尤モ夏期同地方ニ於ケル日本勞働者ノ需要ハ益々擴張スルノ傾向アリ之「シアトル」地方白人ノ我カ移民ヲ嫌ヒ壓迫センカ爲一八九九年華州及加州議會へ日本移民制限又ハ使用禁止案ニ紛ハシキ議案ヲ現出セシメタル最大原因ナルヘシ故ニ今後ハ米國へ渡航スル我移民ノ數ヲ節制シ以テ日本勞働者排

斥ノ銳鋒ヲ挫クト共ニ他方ニ於テハ其既ニ入國シタル我移民ノ地位ヲ安全ニ保有セシムルコト目下ノ急務ト云フヘシ日本ヨリ直接同地方ニ來着スル移民中當國出稼ノ有利ナルコトヲ聽キ渡來スルモノアルモ未タ米國移民法ニ抵觸スヘシト認ムヘキモノナシト云フヲ得レ共彼ノ「ブリティッシュ・コロムビア」州經由ノ移民中ニハ「シアトル」地方ニ於ケル鐵道工夫請負人ヨリ特派スル手代ノ周旋ニテ旅費其他當國へ上陸檢査ノ節必要ナル携帶金三十弗スラ借受ケ渡來スルモノ尠カラサルコトハ前ニ述ヘタルカ如シ而シテ之等ノ移民ハ其入國檢査ノ節必要ナル金子ヲ見セ金ト稱シ上陸後直ニ其金ヲ周旋人ニ返却シ周旋人之ヲ英領地ニ送り更ニ他ノ勞働者誘引ノ資金トス然ルニ近來「シアトル」地方ニ於ケル工夫請負人ノ増加シタルカ爲慣行ノ久シキ移民中其見セ金ノ何ノ爲ニ必要ナルヤヲ辨セス極端ナル一例ヲ舉ケンニ一工夫ハ無頓着ニモ「タコマ」ノ鐵道ハ見セ金迄貸スモ「シアトル」ノ方ハ貸サス云々（其意タル蓋シ「タコマ」港ニアル北太平洋鐵道會社請負人ハ入國ニ際シ必要ナル携帶金三十弗迄貸與スルモ在「シアトル」大北鐵道會社請負人ハ然ラスノ義ナリ）ト公言シ憚ラサルモノアリ其言竟ニ「タコマ」市民ノ耳ニ入り日本移民中契約勞働者ニ紛シキモノアリ坏ト新聞紙上ニ於テ囂々論難スルモノアルニ至レリ然レ共流石ニ無頓着ナル移民モ其移民官ノ取調ニ際シテハ右見セ金ヲ自己ノ所持金ニシテ他人ヨリ借り來レルモノニ非ラ

スト主張スルカ故ニ移民官モ亦之ヲ如何トモスル能ハス其儘今日ニ及ヘリ

又合衆國政府ハ一昨年來「ブリティッシュ・コロムビア」州ニ來着スル日本移民ノ狀況ヲ取調フルコト頗ル嚴密ニシテ移民官某ノ直話ニ依レハ毎年「ブリティッシュ・コロムビア」州ニ入込ム日本人ハ二三千ノ間ニアリ而シテ其内半數正規ノ手續ヲ經米國へ轉入シ其四分ノ一歸國スト見做スモ尙年々同地方へ凡ソ五六百ノ日本人増加セサルヘカラス然レ共事實上同地方ニ在留スル日本人ハ其割合ヲ以テ増加セス故ニ年々増加スヘキ五六百人ノ日本人ハ果シテ何地ヘ向フヘキヤ恐ラクハ當合衆國ニ密航スルモノナルヘシ云々ト云ヘリ

事實毎年「フレージャー」河ノ漁業終了後「シアトル」ニ流入スル密航者百乃至二百ノ多數ニ上ルヤニ聞及ヘリ且又新渡航者ノ目的地ハ各個別々ナルカ如シト雖歸スル所鐵道工夫ナラサルハナシ之米國移民官ヲシテ我移民中契約勞働者又ハ米國移民法違反ノ不正移民ナキヤトノ疑ヲ抱カシメタル一大原因ナルヘシ

尙昨今「シアトル」地方諸新聞紙ノ主張スル日本人排斥論ノ中心ハ日本人ハ生活程度低ク低廉ナル賃銀ニ安ンスルコトヲ得ルカ故ニ白人勞働者ヲ驅逐ス云々ト云フニアレハ試ニ昨一八九八年華州勞働賃銀ヲ對照シタル處左ノ如シ

職業別

白

人

日

本

人

鐵道工夫

一日二弗五〇仙乃至一弗七五仙

一日一弗一〇仙乃至一弗三五仙

料理人

平均月三八弗五六仙

月下等二弗最上四〇弗

給仕

平均月二四弗五二仙

月下等一五弗上等二五弗内外

婢僕

下婢月一二弗乃至二五弗

下僕月五弗乃至二五弗

鋸材場人足

日本人ト同様ノ仕事ニシテ月給トスレハ凡ソ五弗高ク外ニ會社ヨリ家屋ヲ支給ス

一日一弗一〇仙ヨリ最上一弗四〇仙但シ家屋ヲ給セス

水火夫

月給一五弗以上(遠洋航海)

日本船乗組水火夫ハ月八圓乃至一一圓外ニ手當六圓ヲ給ス

第十一、一九〇〇年ニ於ケル一般排日狀況ト在米小村公使ノ意見

一、移民取締ニ關スル林領事及陸奧領事ノ意見

一九〇〇年(明治三十三年)三月二十四日在「タコマ」林領事ヨリ青木外務大臣宛電報ヲ以テ華州ニ於テハ本邦勞働者ノ渡來夥シキコト既ニ公衆ノ注目スル所トナリ加之米國ニ契約勞働者ヲ移入スルハ違法ノ所爲ニシテ當局者ハ銳意之ニ注視シ居リ右違反者ハ見當リ次第嚴科ニ處セラルル筈ナレハ該移民ニ渡航許可ヲ與フルコトハ好マシカラサル旨稟申シ來レリ又續テ桑港陸奧領事ヨ

リモ外務大臣宛四月三日電報ヲ以テ輒近三ヶ月内ニ於テ本邦ヨリ直接桑港ニ到着シタル移民ハ七百八十四名ニ達シ然モ其内五百六十九名ハ三月中ニ來航シタル汽船三隻ノ搭載スル所ニシテ桑港地方新聞紙ハ種々警醒の記事ヲ掲載セリ斯ノ如キ多數ノ移民ノ渡航ハ可及的制限スルヲ可トスヘキ旨稟申シ來レリ

依テ外務大臣ハ關係各地方長官ニ對シ嚴密ニ身元目的其他諸般ノ事項取調ノ上米國移民法違反若ハ上陸無資格ノ嫌アルモノハ一切渡航ヲ許可セサル様訓令セリ

二、排日熱ノ再燃

四月三日在桑港陸奧領事ヨリ昨今本邦ヨリ桑港ニ來着スル本邦移民ノ數頓ニ増加シ本年一月乃至三月ノ三ヶ月間ニ總數七百八十四名ニ達シ一昨年同期ノ同港到着本邦移民總數二百七十八名昨年同期ノ三百七十一名ニ比シ著大ノ増加ナルノミナラス特ニ三月中ノ如キハ同十四日ニ入港ノ「デーリック」號ニテ百九十五名同二十一日入港ノ香港丸ニテ二百四十五名三十一日入港ノ「チャイナ」號ニテ百二十九名合計五百六十九名ノ多人數來着猶今後モ引續キ到着ノ本邦勞働者多カルヘシトノ噂傳ハリタル爲輒近稍々沈靜ニ歸セシ本邦勞働者排斥ノ聲ハ俄然激昂シ桑港諸新聞筆ヲ揃ヘテ其害惡ヲ書立ツルニ至リ特ニ民主黨ニ屬スル「エキザミナー」紙ノ如キハ四月三日ノ論說欄ニ於

テ盛ニ其非ヲ鳴ラシ頻リニ法律若クハ條約ニ依リ我移民ノ入來ヲ防遏センコトヲ主張セリ幸ニ目下加州州會ハ閉會中ニシテ右ニ關スル議案等ノ提出ヲ免レタルモ頃日桑港駐在支那領事ニ於テ同國人入國ニ關シ今少シク支那人排斥法ノ規定ヲ緩和セントスルノ運動ヲ試ミタル反響トシテ却テ昨今支那人排斥問題再燃ノ傾向モ有之際今後更ニ續々多人數ノ本邦勞働者ノ來着ヲ見ルニ至ラハ種々煩累ヲ生シ日米間ニ難問題ノ端緒開クヤモ測リ難キニ付此際渡米移民數制限方可然措置アリタキ旨稟申セリ

三、排日問題ニ關スル在米小村公使ノ意見

四月十一日在米小村公使ハ離任歸國ニ際シ本邦移民渡航問題ニ關シ青木外務大臣ニ對シ意見書ヲ提出シタル處其中ニ左ノ一節アリ

當國ニ到來スル本邦移民ノ件ニ關シテハ本使着任以來常ニ注意ヲ懈ラス時機ヲ見計ヒ一度ハ本邦勞働者ノ多數在留スル太平洋沿岸地方ヲ巡視シ彼等ノ情狀ヲ篤ト取調ノ上具ニ申報致度考案ニ有之候處今ヤ新任地露國ヘ赴任スルノ場合ニ方リ今日迄ノ觀察ニ基キ聊カ右ニ關スル卑見左ニ開陳致候

本邦ヨリ當國ニ到着スル移民ハ主トシテ太平洋沿岸地方「カリフォルニア」「ワシントン」等

ノ諸州ニ多ク在留シ大西洋沿岸地方ニ於テモ近來鐵道運賃ノ低減シタルヨリ右西部地方ヨリ漸次移住スル者多キ傾向ニ有之而シテ彼等ノ多數ハ鐵道工夫奴僕等社會最下級ノ勞働ニ從事シ獨立ノ事業ヲ營ム者ハ誠ニ寥々タル有様ニ有之候是ヲ以テ彼等ハ自然他ノ下級勞働者ト競争スルノ地位ニ立チ其嫌惡ヲ招クハ自然ノ勢ニ有之而シテ當國人ハ一般ニ右等勞働者ヲ以テ日本人全體ヲ判定スルノ標準トナシ本邦人ハ總テ此等下級勞働者ノ如キモノナリト速斷スルカ故ニ小ニシテハ當國ニ在留スル他ノ本邦人ノ利害ニ關シ大ニシテハ實ニ我國ノ威信ヲ損スル事渺カラサル義ト存候惟フニ海外ニ向ツテ國ヲ擴張スルニハ貿易航海ノ二途ニヨルノ外無之然ルニ今日ノ如ク多數ノ移民續々渡航シ來リ社會最下級ノ勞働ニ從事シ當國人ニ輕蔑嫌惡セラルトキハ地方政治家ハ之ヲ利用シ人心ノ向フ所ニ投シテ以テ自家ノ聲望ヲ博セントシ其結果彼我相互ノ感情ヲ害ヒ兩國間貿易ノ發達ヲ阻礙スルノ虞有之候今其實情ヲ極言スレハ恰モ貧困者救助ヲ海外ニ仰クカ如キ有様ニ有之而シテ窮困者ノ處分ニ關シテハ內國ニ於テ相當ノ方法有之可ク然ルニ之ヲ遠ク外國ニ求ムルカ如キ觀アルハ甚タ遺憾ナル次第ニ有之左レハ此際敢テ絶對的ニ移民ノ渡航ヲ禁止スルノ必要無之ト存候得共何トカ其制限ヲ設ケ多數ノ勞働者ヲシテ漫リニ渡航セシメサルヲ以テ最モ緊要ノ儀ト被存候云々

四、鍋島代理公使ノ稟請

四月二十八日在米鍋島臨時代理公使ヨリ青木外務大臣宛電報ヲ以テ本邦移民ノ米國ニ渡航スルモノ近來俄ニ増加セシコトハ同國朝野ノ非常ナル驚愕ヲ惹起シタル模様ニテ此儘自然ノ趨勢ニ委ヌルトキハ重大ナル結果ヲ生スヘキ虞アリ殊ニ目下同國大統領改選（註、「マッキンレー」當選ス）ノ競争漸ク開始セラレシ機ニ際シ各政黨ニ於テ人氣取り政策上本邦移民排斥ノ政綱ヲ立ツルニ至ルヤモ保シ難ク斯クテハ將來同國議會ニ於テ益々本邦人ニ取り不利益ナル立法ヲ試ムルニ至ルヘキ虞アルニ付移民禁止又ハ制限ノ方法ヲ採ルコト然ルヘキ旨ノ意見ヲ上申セリ

依テ外務大臣ハ各地方長官ニ對シ今後一ヶ月二十名乃至三十五名（十月ヨリ一月ニ至ル四ヶ月ハ其半數）ノ各府縣割當數ヲ超過セサル範圍内ニ於テ渡航許可ヲ與フヘキ旨訓令セリ

五、成田分館主任ノ稟請

五月一日在「シアトル」分館主任成田書記生ハ青木外務大臣宛電信ヲ以テ同地勞働組合ハ本邦勞働者ノ流入ニ反對シ日本人經營ノ料理店ヲ「ボーコット」セントスルノ形勢アリ本邦移民ハ一船五十名以下トスルコト望マシキ旨ノ意見ヲ稟申シ來レリ

六、移民取締ニ關スル青木外務大臣ノ通牒

五月八日附ヲ以テ青木外務大臣ハ桑港「タコマ」晚香坡及「シアトル」駐在ノ本邦領事又ハ分館主任ニ對シ大要左記ノ如キ通牒ヲ發シタリ

近年本邦移民ノ英領加奈陀及北米合衆國ヘ渡航スルモノ著シク其數ヲ増加シ到ル所本邦勞働者排斥ノ輿論ヲ嵩メ惹テ一般本邦人ニ不利ナル影響ヲ與フルニ至ルヘキ虞アルノミナラス之等移民ノ渡航ヲ無制限ニ放任スルトキハ遂ニハ右地方ニ於ケル勞働需要ニ超過シ其結果生計ノ途ヲ失シ困難ノ悲境ニ陷ルモノヲ生スヘキ懸念有之ニ付曩ニ右地方ニ於ケル勞働者實際ノ情況ヲ示シ尙移民ニ關スル諸條例ヲ翻譯シテ之ヲ各地方ニ配布シ一ハ違法渡航者ヲ取締ルト同時ニ移民制限數ヲ制定スルコトトシ既ニ去ル明治三十一年八月英領加奈陀行移民ニシテ移民取扱人ニ依ルモノハ取扱人一人ニ付全國各地方ヲ通シテ一箇月三十名以下又取扱人ニ依ラサルモノハ特ニ其數ヲ一定スルコトナキモ精々制限ノ上渡航許可致スヘキ旨訓令シ又移民取扱人ニ依ル米國行移民ニ關シテハ同國移民法違反ト認メラルルノ嫌アルヲ以テ三十一年六月以降移民取扱人ノ同國行移民ヲ取扱フコトヲ差止メタリ然ルニ客年末布哇自由移民渡航ヲ差止メタルト米國各地方本邦勞働者需要多キノ風說アリシ爲益々加奈陀及米國行移民ノ數ヲ増加スルニ至リタルヲ以テ本年二月二十七日各地方長官ニ訓令ヲ發シ英領加奈陀行移民ハ移民取扱人ニ依ルモノハ各一名

ニ對シ全國各地方ヲ通シテ一箇月二十名以下又取扱人ニ依ラサルモノハ一府縣ニ付同五名以下ニテ該渡航ヲ許可セシメ次テ同三月二日移民取扱人ニ依ラサル移民ノ渡航認可取扱標準ヲ訓示シ益々取締ヲ嚴ニシ尙同月二十六日ヲ以テ更ニ訓令ヲ發シ曩ニ制定セシ移民取扱人ニ依ル英領加奈陀行移民一箇年割當人員即チ二百四十人ヲ超過セサル限リハ冬期四箇月間ハ可成其渡航ヲ全禁シ之ヲ春季ニ割振リ該渡航ヲ許可スヘキコトトセリ然ルニ米國行移民ニ關シテハ前記加奈陀行移民トハ其趣ヲ異ニシ同國ニ於テ嚴密ナル外國人移住條例其他契約勞働者移住禁止條例等ノ存スルアリ且ハ當省ニ於テ先年來訓令ノ次第モ有之特ニ加奈陀行移民ノ如キ制限ヲ設ケサリシモ輒近同國行移民ハ非常ニ増加シ之亦員數ノ制限ヲ設クル必要ニ差迫リタルニ付客月二十八日訓令ヲ發シテ各府縣人口稠密ノ程度ニ應シ右渡航移民ノ數ヲ定メ次テ本月四日附ヲ以テ當分ノ間一府縣一ヶ月十名乃至四名以內ニ制限スヘキ旨更ニ訓令致置タルニ付御了知相成度シ

七、移民問題ニ關スル本省ノ方針

五月八日青木外務大臣ハ在米鍋島臨時代理公使ニ對シ曩ニ四月十一日附公信ヲ以テ小村公使ヨリ米國渡航本邦移民ニ關シ縷々具申シタル意見ニ關シ本省側ノ本問題ニ對スル態度ヲ開陳スル處アリタルカ其中ニ左ノ一節アリ

元來海外出稼移民ニ對スル本省ノ方針ハ今日ニ於テ之ヲ獎勵スルニ非サルハ勿論又之ヲ自然ノ趨勢ニ放任スルモノニモ無之畢竟移民保護上危險ノ虞無ク又帝國一般ノ利益ヲ毀損セサル限度ニ於テ之ヲ許可セントスルモノニ有之候處近來米國行移民ノ數著シク増加シ來リ候ニ就而ハ加奈陀行移民同様該移民制限ノ必要ヲ認メ仍テ別紙（註、省略ス）ノ通夫々地方廳ヘ及訓令尙其旨在桑港其他各領事ヘモ通牒致置候次第ニ有之候（以下略ス）

八、在「シアトル」邦人料理店ニ對スル妨害

四月十五日汽船旅順丸ニ搭乘シ本邦勞働者千百餘名「シアトル」港ニ來着其內五百九十一人同港ニ上陸其後陸續多數移民ノ渡航ヲ見タル爲漸ク同地官民ノ本邦移民ニ對スル態度豹變シ從來同地方新聞ハ本邦移民ノ渡航ニ對シ烈シク反對攻撃シタルコトナカリシカ四月二十四日以來「スター」ト稱スル一仙新聞其紙上ニ於テ極力本邦移民反對ノ氣勢ヲ昂ケ遂ニ同地ニ於ケル西部勞働組合支部ニ於テハ同地在留本邦人經營ノ十五軒ノ料理店ニ對シ「白人料理人及給仕人等ヲ使用スヘシ然ラサレハ之ヲ「ボーイコット」スヘキ旨ノ通牒ヲ發シタリ依テ該店主主人等ハ再三協議ノ上其案ヲ拒絕シタル處五月一日彼等ハ「ボーイコット」ヲ開始シ日本人ノ洋食店ヲ愛顧スルハ米國人ノ恥辱ナリ云々ト記載セル背板様ノモノヲ擔ヒテ徒歩スルモノ或ハ馬車ニ駕シタルモノヲシテ本邦人經營ノ

主要洋食店前ニ停立又ハ步行セシメ或ハ十數人店前ニ群集シ或ハ出入ノ顧客ニ對シ其出入ノ不可ヲ説ク等盛ニ妨害ヲ爲シタリ茲ニ於テ店主ハ自身又ハ辯護士ヲシテ警察署及「シェリフ」ニ訴ヘ保護ヲ請求シタル處「シェリフ」及警官ハ出張ノ上群集ヲ散亂セシムルモ散スレハ忽チ蝟集シ來ル有様ナリシ故「シアトル」分館主任成田書記生ヨリ市長及警察署長ニ對シ保護方ヲ依頼スルト共ニ取締ノ爲特別警官ノ派遣方ヲ交渉セルモ要領ヲ得ス結局五月四日ニ至リ右「ボーイコット」ノ終熄ヲ見ル迄毎日略々同様ノコト繰返サレタリ

右事件ニ關スル青木外務大臣宛報告中ニ於テ成田分館主任ハ一般「シアトル」地方ノ官民ノ本邦移民ニ對スル感情ト目下諸鐵道會社ノ人夫募集ニ對シ供給漸ク飽滿セルノ狀ヲ示セルニ鑑ミ今後同港ニ向ケ渡航ノ移民ハ停止スルカ少クトモ每船五十名限リト致シ度旨ノ意見ヲ上申シ併セテ參考ノ爲左記ノ表ヲ添付シ越タリ

一九〇〇年一月以後「シアトル」港並ニ附近太平洋沿岸（英領地方ヨリ轉入セルモノヲ含ム）ニ來着シタル本邦移民統計

一	月	一六人
二	月	二九

三	月	八五
四	月	一、三三八

計 二、五五八人（「シアトル」移民官調査）

九、林領事ノ報告並ニ共和黨代表委員會ノ決議

四月十八日附ヲ以テ在「タコマ」林領事ハ青木外務大臣ニ對シ曩ニ移民制限ニ關シ稟請致置タルニモ不拘其後我勞働者ノ渡來ハ益々増加シ一九〇〇年ニ入リテハ殊ニ甚シク一船毎ニ五六百乃至七八百ヲ搭載シ最近「シアトル」着ノ「グードウイン」號及旅順丸ノ如キハ各千百名及千三百名ノ多數ヲ齎シ尙續々渡來ノ風聞アル爲日本勞働者排斥ノ輿論再發ノ虞アリ現ニ移民法ヲ修正シ英語ヲ解スルモノニ非ラサレハ入國ヲ禁ストノ一條項ヲ加フヘシトノ說ハ一部ニ勢力アルカ如ク若シ斯ノ如キ修正案ニシテ議會ヲ通過スルカ如キコトアランカ歐洲南部ヨリノ移民及我移民ニトリテハ殆ト禁止的法律ニ等シキモノニシテ不利之ヨリ甚シキハナシ現在米國一般ノ情勢及一般諸外國トノ關係上右ノ如キ法案ハ容易ニ通過ヲ見ルコト萬無カルヘキモ現時ノ如ク每船千名内外ノ夥シキ移民入國シ來ルトキハ右ノ如キ修正案提出派ニ屈強ノ材料ヲ與ヘ甚タ不利ナルモノアルヘク假令當期議會ニ右ニ關スル何等議案提出セラレストスルモ渡來本邦移民ノ激增ノ爲排日運動熾烈

トナラハ米國移民局ニ於テモ之ニ刺激セラレ現行移民法勵行ノ必要ヲ認ムルニ至ルヤモ計リ難ク若シ移民検査官ニシテ移民法ヲ勵行セント欲セハ當地方ニ渡來スル我移民ノ一割ニ對シ上陸ヲ拒絕シ之ヲ送還セシムルコト敢テ至難ノコトニハ之無カルヘシ依テ向後ハ「タコマ」「シアトル」及「ボートランド」ニ到着スヘキ我勞働者ノ數ハ當分一ヶ月多クモ百名ヲ超エサル割合ト致度旨稟請シタリ

越エテ四月二十四日附ヲ以テ更ニ同領事ハ青木外務大臣ニ對シ華州ニ於ケル共和黨ハ六月「フィラデルフィア」市ニ於テ開催セラルヘキ全國共和黨大會ニ臨ム準備トシテ曩ニ右大會ニ出席ノ爲選舉セラレタル代表委員ノ會合ヲ四月二十三日「タコマ・ホテル」ニ開催シ其際「タコマ」市代表「ジェー・エム・アシトン」ヨリ提出セラレシ日本勞働者排斥ニ關スル決議案ヲ滿場一致ヲ以テ通過シタリ

一〇、移民問題ニ關スル下院ノ決議

五月一日加州選出下院議員「ジューリアス・カーン」ハ國務長官ニ對シ公共ノ利益ニ違反セサル限り過去二年間若シ出來得ヘクンハ次年ニ於ケル日本移民ニ關シ國務省ノ有スル情報竝ニ日本移民ニ對シ其從來採リ來レル政策ヲ議會ニ對シ發表センコトヲ要求スル旨ノ決議案ヲ下院ニ提出セ

ルカ其後下院外交委員會ニ附託セラレタル後都合ニ依リ十日ニ至リ大藏長官ニ對スル内容略々同一ナル決議案ニ變更セラレ唯其末尾ノ政策ニ付テハ「日本移民」ノ代リニ「契約勞働者ノ取締竝ニ違法ナル契約書ニ對スル處罰」ナル文字ヲ使用セリ

五月十五日移民局長「パウダリー」ハ右決議ニ關シ一八九八年度及九九年度ノ統計ニ依レハ日本人ノ渡米數ハ夫々二千二百三十人及三千三百九十五人一九〇〇年度最初ノ九ヶ月間ニ於テハ四千四百二十七人ニシテ其數字ハ加奈陀經由ノモノヲ包含セス之等ノ統計作成ノ精確ヲ期スルハ財政上ノ理由ニ依リ目下困難ノ狀態ニアリ最近日本ニ派遣セル移民官ノ報告ニ依レハ日本ニ於テハ各種ノ移民獎勵ノ協會アリ其中ニハ官邊ノ高官ノ關係スルモノアリ又米國ノ雇主側ニ於テ安價ナル勞働ヲ求ムルコトカ日本勞働者ノ渡來ヲ刺戟スルコト疑ヲ容レスト云ヘリ

右「パウダリー」ノ陳述後「カーン」ハ之等移民ノ統計作成ヲ精確ナラシメンカ爲之等移民ノ出入港指定ニ關スル法案ヲ提出スヘク又一委員會ヲ任命シ以テ現行日米條約ノ改訂ヲ圖リ議會ヲシテ日本移民排斥ノ立法ヲ爲サシムル樣努力スヘシ且斯ノ如キ法律ヲ作りテ我職工及勞働者ヲ苦力トノ競争ヨリ救済スルコトニ關シテハ余ノ會見セル議會ニ於ケル有力議員ハ悉ク賛意ヲ表シタリト陳述セリ

一一、排日感情ノ沸騰

五月二十二日附ヲ以テ在米鍋島臨時代理公使ハ青木外務大臣ニ對シ一月以來本邦移民頓ニ増加シ米國人心ノ激昂容易ナラサルモノアリ本件ニシテ一朝政黨問題トナリ議會ニ顯ハルルカ如キ場合ニ立至ツテハ本邦移民禁止法ヲ制定セラルルノ虞アリ本月一日以降上下兩院共ニ日本移民渡來ノ件ニ付大藏長官ノ報告ヲ徵スルノ決議ヲ爲シ十七日ヲ以テ大藏長官ヨリ上院ニ報告(附屬書第五號)ヲ提出セリ右決議案ハ何レモ西部諸州選出議員ノ發議ニ係リ其動機ハ又西部諸州勞働團體等ヨリ其選出議員ヲ示唆シタル所ヨリ生シ來リタルモノナレハ移民反對ノ政黨運動ノ第一着手トモ稱スヘキモノニシテ將來如何ナル狀態ニ推移スルヤ懸念ニ堪ヘサルモノアリ現在日本移民ノ渡航制限セラレツツアリト雖渡來移民ハ陸續トシテ絶エス且將來益々増加スルヤニ見受ケラルル處此際本邦ニ於テ充分ナル制限方法ヲ設ケサルニ於テハ日本移民禁止法ヲ制定セラレタレハトテ條約上如何トモ致シ難ク數千ノ日本移民ヲシテ云フヘカラサル慘苦ニ陷ラシムルノミナラス國家ノ威嚴ニ對シテモ一汚點ヲ加フルノ虞之アルヘシトノ趣ヲ上申シ來レリ

一二、移民検査官ノ太平洋沿岸派遣

五月中旬米國移民局ニ於テハ特別検査官「ロバート・ワッチョン」ヲ西部ニ派シ以テ渡來本邦勢働者ノ實狀ヲ視察セシムルコトトナリ同氏ハ「タコマ」ヲ根據トシ時々「シアトル」及「ブリテ^イッシュ・コロムビア」地方ヘモ出張シ嚴密ナル調査ヲ爲シ居タル處五月ヨリ六月上旬ニ掛ケ「タコマ」地方ニ來着セル金州丸、和泉丸、「ヴィクトリア」號、「グルノーグル」號、「クキン・アデレーデ」號其他一二隻ノ汽船ハ孰レモ三百乃至七百ノ本邦移民ヲ搭載シ來リ茲ニ於テ移民検査官モ此際移民法勵行主義ヲ執リ聊カニテモ疑ハシキ點アルヲ見ルトキハ悉ク上陸ヲ拒絕シ現ニ「グルノーグル」號ニテ五十名「クキン・アデレーデ」號ニテ三十二名和泉丸ニテ七十一名ノ上陸無資格者ヲ生シ右ノ内検査官ノ判決ヲ不當トシ移民局ヘ上告セシ者三十一名アリタルモ同局ニ於テハ検査官ノ判決ヲ是認シタル爲爾餘ノ者モ上告ノ效ナキヲ知り其手續ヲ爲サス歸國ノコトニ決シタリ

一三、加奈陀ヨリ轉入移民ノ取締

外國移民ニシテ一旦加奈陀地方ニ上陸ノ上祕カニ米國ニ轉入スルモノ多ク米國政府ニ於テモ從來其取締方法ヲ研究シ居タルモ加奈陀ノ當該官廳トノ交渉充分纏リ兼ネ完全ノ取締法ヲ執行スル能ハス其儘ニ放置セラレ居タル處九月四日大藏次官「エイチ・エイ・テイラー」ハ華府出發加奈陀地方官吏ト協議ヲ遂ケ充分ノ取締方法ヲ講スルコトトナレリ八月二日青木外務大臣ニ於テモ各地方

長官ニ對シ北米合衆國及英領加奈陀行移民ハ當分ノ内一切其渡航ヲ差止ムヘキ旨訓令セリ

一四、米國大藏長官ノ年報

十二月七日在米高平公使ヨリ加藤外務大臣ニ對シ電報ヲ以テ移民問題ニ就テハ種々調停ニ力ヲ盡シタルニ不拘大藏長官ハ今回發布ノ年報誌上ニ於テ移民局長ノ年報ニ關シ「該年報ニ日本移民ノ増加指摘サレ之ヲ制止スルニ非ラスンバ同國勞働者ノ代リニ之等低廉ナル外國勞働者ヲ使役スル太平洋沿岸諸州ニ於テ重大ナル紛擾ヲ生スヘシ」トノ意見掲載サレタリトテ右移民渡航ノ禁止ハ尙絕對的ニ必要ナリトノ意見ヲ上申セリ茲ニ於テ帝國政府ハ曩ニ八月二日青木外務大臣ノ名ニ於テ各地方長官ニ對シ北米合衆國及英領加奈陀行移民ハ當分ノ内一切其渡航ヲ差止ムヘキ旨訓令セル方針ヲ續行スヘキコトニ決シ其旨在米高平公使ニ回答セリ

一五、移民渡航制限ノ效果

八月一日日本邦勞働者ノ渡來ヲ差止メタル以後ノ狀況ニ關シ十二月十八日附ヲ以テ在「タコマ」林領事ノ報告スル所ニ依レハ本邦ヲ發シ「ビューゼット」海峽及「ボートランド」市ヘ到着セシ汽船中「タコマ」市及「ボートランド」市ヘ到着セシ「ドッドウエル」商會（北太平洋汽船會社）ノ汽船ハ全然本邦移民ヲ搭載セス又日本郵船會社ノ汽船ニテ「シアトル」ニ渡來セシ下等船客中

勞働者ト認ムヘキ者ハ一人モ無ク其結果在留邦人中ニ於ケル一部ノ苦情ハ兎モ角我國全體ノ利害ヨリ推ストキハ尠カラサル好結果アリタル様認メラレタルモ米國大統領ノ選舉ハ去ル十一月六日ヲ以テ舉行セラレ右期日ニ先立ツ數週間ニ於ケル各派政治家ハ可成多數ノ投票ヲ獲得セント試ミ諸所ニ於テ本邦移民排斥演說ヲ爲シ以テ白人勞働者ノ歡心ヲ得ント努メ「シアトル」及「エヴェレット」ニ於ケル勞働組合ハ各數回ノ集會ヲ催シ本邦勞働者ニ關スル諸種ノ決議ヲ爲シ甚シキハ暴力ニ訴ヘ本邦人ヲ驅逐セント試ミタル場合モ三四回アリタルモ一面本邦勞働者ヲ使用スル諸鐵道會社ノ運動ニ依リ又帝國政府ニ於テ渡來移民ノ禁止ノ實施中ナリシカ爲右排斥論ノ勢力ヲ殺クコトヲ得タルモノト認メラレタリ然レ共大統領選舉當時前記勞働組合ト右決議ヲ移民局及米國上下兩院議員ニ提出セルヲ以テ將來一層嚴重ナル取締法ノ制定ヲ見ルヤモ計リ難キ狀況ニアリタル趣ナリ

第十二、一九〇一年ニ於ケル一般排日狀況

一、東洋人使用禁止法律案

一九〇一年（明治三十四年）一月十九日華州ニ於テハ殆ト一切ノ種類ノ勞働ニ日本人及支那人ヲ使用スルヲ禁スルノ法律案竝ニ州市及各會社ニ未タ歸化セサル外國人ヲ雇入ルルヲ禁スルノ法律

案州議會ニ提出セラレタリ右法案ニ關スル在「シアトル」林領事ノ報告ニ依レハ右議案ハ一日本人及支那人ニ對スルモノニシテ他ハ一般外國人ニ對スルモノナレ共其精神ハ孰レモ本邦人ヲ目的トシタルモノタルハ明白ニシテ就中前者ノ如キハ通常ノ場合ナレハ議會ヲ通過スルノ虞ナキモノト認メラレタルモ一九〇〇年來太平洋沿岸諸州ニ於ケル本邦人ニ對スル一般ノ意嚮及各勞働組合カ互ニ氣脈ヲ通シ夫々運動セル處ヨリ察スル時ハ其前年同州議會ヘ排日議案ノ提出セラレタル時ノ狀況トハ全ク異ナリ假令不條理ノ議案トハ云ヘ何時法律トナルヤモ計リ難ク又之ニ對スル反對運動モ稍々其方針ヲ變セサルヘカラスト認メラレタルヲ以テ右議案ノ提出ト同時ニ林領事ヨリ州知事ヘ宛テ電照スルト共ニ他方ニハ「タコマ」及「シアトル」ニ於ケル主ナル邦人團體ヲシテ右議案ニ反對スル陳情書ヲ林領事迄提出セシメ之ヲ新聞紙州知事及州議會議長竝ニ右議案ヲ附託セラレタル委員其他有力ナル個人ヘモ夫々配布シ置タル處其後議案ハ委員會ニ於テ握潰シトナルヘキ形勢ヲ示スニ至レリ然ルニ右議案提出議員ハ再ヒ該議案同様ノ内容ヲ有スル二個ノ建議案(Memorial)ヲ提出セシモ多少討論ノ末州議會ハ之ヲ否決シタリ

尙林領事ノ觀察ニ依レハ今回各勞働組合ニ於テ運動セシ主ナル目的ハ右建議案ノ通過ニアリテ既ニ加州及「オレゴン」州議會ニ於テハ右同様ノ建議案ヲ可決シ次テ華州其他「アイダホ」州及

「モンタナ」州ヲ併セ太平洋沿岸ニ於ケル諸州ノ民意ハ本邦人ノ渡來ニ反對ナルコトヲ發表シ以テ目下開催中ナル合衆國議會ヲ動カシ現行移民法ニ多少ノ制限ヲ加ヘシメントスルニアリシ模様ナリ

二、支那人排斥法ノ修正運動

支那人排斥法ハ一九〇二年五月限り其效力ヲ失フヲ以テ該法ノ再制定ヲ一九〇一年合衆國議會ニ提唱センカ爲豫テヨリ桑港市長及市會カ主唱者トナリ加州内各地方ヨリ代表者ヲ召集シテ支那人排斥加州同盟會ヲ組織セントノ計畫アリシ處十一月二十一日桑港ニ於テ愈々其會合ヲ開催スルコトトナリ會スル者加州選出合衆國上下兩院議員加州議會上下兩議員各市長及地方代表者等ニシテ會長ニハ支那人排斥法創制者タル前合衆國下院議員「ゲーリー」ヲ推薦シ議會ニ該法再制定ノ議ヲ提唱スルコト竝ニ華府ニ委員ヲ派シテ右ニ關スル運動ヲ爲サンコト等ヲ議決セリ

該請願書中ニ日本人排斥條項ヲモ加フヘキヤ否ニ關シ同夜委員會ニ於テ二時間餘ノ討議アリ勞働同盟會派ノ委員ヨリ熱心ナル該條項附加ノ提議アリタルニモ不拘終ニ反對者多數ヲ占メ請願ハ單ニ支那人排斥ニ止ムルコトニ決セリ其理由トスル所ハ第一同盟會ハ支那人排斥法再制定請願ノ目的ヲ以テ集會シタルモノナルヲ以テ日本人排斥條項ヲ添加スルハ其權限外タルコト第二ニ日本人

排斥條項ヲ請願ニ加フルハ其主要目的全體ノ成功ヲ危殆ナラシムルノ恐アルコト等ナリ然ルニ越テ翌二十二日委員會ニ於テ勞働者同盟派ノ委員ヨリ支那人排斥請願書以外ニ「日本人及他ノ亞細亞移民ハ其性格及増加ノ數ニ鑑ミテ我產業上ノ利益ヲ危クスルノ虞アルモノト認メ支那人排斥加州同盟會ハ該危險ヲ防止スルニ必要ナル相當ノ處置ヲ取ルヘキ事ヲ實行委員ニ委任ス」ナル決議案ヲ提出シ長時間ノ討議ヲ經テ終ニ該案ヲ通過シ更ニ之ヲ同日ノ大會ニ報告シテ其贊同ヲ得ルニ至レリ

桑港勞働者同盟ハ支那人排斥法再制定請願ヲ機トシテ日本人排斥條項ヲモ之ニ添加セントシ一九〇一年夏以來頻リニ運動シ來レル處前陳ノ如ク二十一日ノ委員會ニ於テ動議ノ成立セサルヲ見勞働同盟派ノ委員ハ其代表スル同盟ニ對シ又兼テ彼等ノ發表セル宣言ニ對シテ何等カ施爲セサルヘカラサルノ窮境ニ陥リ已ムヲ得ス該決議案ヲ通過セシメテ其責ヲ塞クニ至リタルカ如シ而シテ委員會ハ又能ク其間ノ消息ヲ了解セルト該決議案ノ實行上殆ト無責任ノモノナルトニ依リ終ニ折合上之ヲ通過セシメタルモノノ如シ

三、在米領事ノ在留證明書ト旅券ノ發給

一九〇一年十一月小村外務大臣ヨリ在米高平公使ニ對シ米國ニ渡航セントスル我移民ニシテ米國

駐在帝國領事ノ發給セシ在留證明書ヲ有スル者及其妻子ニ限り米國移住民ニ關スル各條例ニ抵觸セサルニ於テハ其渡航許可ヲ與フルコトノ可否ニ關シ意見回申方訓令シタル處高平公使ヨリ十二月十八日附ヲ以テ大要左ノ如キ意見ヲ上申シ來レリ

米國移民ニ關スル各條例ニ抵觸セサル以上ハ理論上何人ニ對シテモ渡航許可ヲ與ヘテ差支ナキ儀ニ有之モ從來ノ實例ニ徵スルニ本邦ニ於テ右條例ニ抵觸セサルモノト認メタルモノニテモ米國移民検査官ニ於テ之ヲ認メサルカ如キ場合尠カラス就中移民條例中上陸ヲ禁止スヘキ條件トシテ「公衆ノ厄介トナルヘキ者」ナル一項有之處如何ナル者カ公衆ノ厄介タルヘキモノナリヤニ就テハ全然検査官ノ認定ニ一任致居ルモノナル上之等検査官ハ内地人ノ非難ヲ免レンカ爲常ニ我ニ不利ナル認定ヲ與フルノ傾向有之今後トテモ我移民ニ對シ米國へ渡航ノ途開カルルニ於テハ自然其渡航ノ數ヲ増加シ來リ其上陸拒否ニ關スル紛議ヲ醸出スルコトハ到底免レ難キコトト思考セラル殊ニ領事ノ在留證明書ナルモノハ苟モ當國ニ在留スル以上ハ全然資産ヲ有セサル者ニ對シテモ又相當ノ生計ヲ營ミ居ル者ニ對シテモ一樣ニ發給スヘキモノニ有之此在留證明書ヲ渡航許可ノ一條件トスルモ將來ノ紛議ヲ除ク爲ニハ些シテ效力ヲ有セス其外目下支那人排斥法ノ繼續案ナルモノ今期議會ニ提出セラレ居リ議員中ニハ日本人ヲモ其内ニ追加スヘシトノ說

ヲナス者スラ有ル模様ナルニ就テハ此際多少ニ不拘當國へ我移民渡航ノ途ヲ開ク議ハ便宜ナラスト思考ス

第十三、一九〇二年ニ於ケル一般排日狀況

一、日本移民ノ渡米狀況

一九〇二年（明治三十五年）四月四日附ヲ以テ在米高平公使ハ小村外務大臣ニ對シ其後在桑港及在「シアトル」帝國領事館ニ命シ兩港ニ於ケル本邦移民ノ出入狀況ヲ取調ヘ報告セシメタルニ月々少ナキモ數十名多キハ百名以上ノ來航者アルモ同時ニ又歸航スルモノモ尠カラス依テ本邦ニ於テ米國行移民ノ渡航ヲ禁止シタル以後ハ著シク米國在留労働者ノ數ヲ増加スルコトナク從テ我移民排斥ノ聲モ目下ノ所漸ク沈靜ニ向ハントスル模様ヲ呈シ現ニ合衆國議會ニ於テ支那人排斥法案討議中右渡航禁止ニ付我政府ノ注意周到ナルコトヲ引證シタル議員等モアル位ナレハ右渡航禁止ノ事ハ米國ニ於ケル日本人排斥熱ヲ沈靜セシムル爲尠カラサル效力ヲ有スルモノト認メラレタリ然ルニ我移民ニ對スル米國需要ノ景況如何ヲ看査スルニ家僕使丁等ハ云フニ及ハス鐵道工夫等トシテ本邦人ヲ望ム者尠カラス現ニ桑港ニ於ケル邦字新聞紙上ニハ毎日鐵道工夫ノ需要ヲ廣告シテ之ヲ募集シ居ルモノ有之ノミナラス某議員ノ如キハ其選舉區民ノ希望ニ應シ特ニ書ヲ寄セテ其募

集方法ヲ問合セ來リタル事モ有リ就テハ始終幾分ノ需要アルハ明瞭ナルモ之ヲ以テ俄ニ本邦人ノ無制限の渡航ヲ許可スル時ハ忽チ渡航禁止前ノ如ク船便毎ニ多數ノ移民渡來シ其結果又々白人ノ愁訴ヲ惹起スルハ必然ニシテ殊ニ又渡來ニ付利益ヲ占得スル者ハ往々移民其者ニ非スシテ本邦ニ於ケル移民周旋人ト米國ニ於ケル工夫募集者ニ過キササルコトアリ將又近來本邦ニハ太平洋沿岸沃野千里空シク荒蕪ニ委シアル旨ヲ絶叫シ該地方ニ於ケル我農業者耕作ノ好況ヲ唱道シテ朝野ノ有力者間ニ遊說シ我人口ノ餘剩ヲ移出シ以テ一事業ヲ起サシメントスル者有之趣傳承スルモ全ク一理ナキニ非サルヲ以テ爲念在桑港帝國領事ヲシテ從來同港附近ニ於ケル我農業者ノ成績ヲ調査セシメタルニ大ニ見ルヘキモノアルモ要スルニ右ハ我移民中ノ良民等十數年來辛苦經營ノ結果ニ出テタルモノニシテ俄ニ無資力無經驗ノ雜民ヲ渡航セシメタリトテ此成果ヲ得ヘキニアラス愈々萬全ノ見込アルモ必ス相當ノ有資力者アリテ監督輔導スルニ非サレハ急速ノ成功ヲ期スヘカラス然ルニ有資者ヲシテ一定ノ事業ノ爲ニ我移民ヲ輸來セシムル時ハ忽チ契約労働者トシテ上陸ヲ拒絶セラルヘキハ勿論ニ付這般ノ事業モ妄リニ企畫スルヲ得ス然ルニ一面又我移民渡航禁止以來ノ狀況ヲ見ルニ前述ノ如ク我移民排斥熱漸ク沈靜ニ歸セントスルノミナラス爾來渡來ノ労働者ハ幾分力良種ノ者多キ模様ニテ「ブリティッシュ・コロムビア」等ヨリ轉入ノ者ニハ入國ヲ禁止セラレ

タル者多キモ本邦ヨリ直航ノ者ニテ上陸ヲ拒絕セラレタル者甚タ稀ナル趣米國官吏ノ告白スル所ナリ就テハ前記兩領事館ノ報告ニ據レハ米國在留我移民ノ數ハ多少増加ノ模様ナルモ此際相當ノ方法ニテ適宜ノ制限ヲ設クルコトヲ得ルニ於テハ猶幾分ノ渡來者ヲ加フルモ格別排斥ノ聲ヲ高カラシメスシテ上陸許可ヲ得ルハ勿論其移民ノ種類ニ依テハ數年内ニハ剩餘金ヲ得ルニ從テ前陳桑港領事館報告ノ如ク耕地ヲモ買入レ有利ナル自作農業ニ從事スル者ヲ増加シ得ヘキカト認メラル但シ米國日本人排斥論者中ニハ近來支那人ノ數漸次減少スルニ反シ日本人ノ數追々増加スルノ傾向アル旨ヲ主張シテ排斥ノ理由トナス向モアリ且右農耕等ノ事業ハ前述ノ通り多數ノ移民ヲ渡航セシメタリトテ直チニ好成績ヲ得ヘキ儀ニハ無之萬一續々其渡來アルニ於テハ渡航禁止以來折角沈靜ニ向ヒツツアル本邦移民排斥熱ヲ再燃セシムルノ虞アリ其邊ハ充分酌量ヲ要スヘキ旨ノ意見ヲ上申セリ

二、在米日本移民生活狀況

左記ハ四月九日附在桑港上野領事ノ高平公使宛日本移民ニ關スル報告ノ大要ナリ當時ノ本邦移民ノ生活狀況ヲ示ス參考資料トシテ左ニ之ヲ掲記スヘシ

加州各地方ニ於テ土地ヲ所有シ若クハ借受ケテ農耕ニ從事スル本邦人ノ數ハ現今大約三百五十人以上ノ多キニ達シ其占有スル所ノ耕地凡ソ一萬六千「エーカー」ノ廣キニ互ルモ一地方ニ集合シテ所謂部落的團體ヲ形成スルハ單ニ「フロリン」地方一ヶ所アルニ過キス別表ニ揭示スルカ如ク該地方ノ外十數ヶ所ニ於テ土地ヲ借受ケ各種ノ農業ニ從事スル本邦人少キハ一ヶ所ニ數名多キハ一百名内外ニ達スルモ或ハ農產物ノ種類ヲ異ニシ或ハ一地方内ト雖モ散居離在スルカ爲相互ノ利益上密接ノ關係ヲ有セサル等ノ原因ヨリ部落的團體ノ形ヲ形成スルモノ殆ト無キカ如シ「フロリン」地方ハ一村内ニ七十人内外ノ本邦人農業者ヲ有シ而モ同一種ノ農產タル苺ノ栽培ニ從事シ直接共通利害ノ關係ヲ持スルヨリ自然一致結合ノ必要ヲ生シ始メテ團體的村落ヲ形成スルニ至レリ該地方ハ初メ白人農業者専ラ苺ノ栽培ニ從事シタリシカ多クハ皆收益ヲ舉クル能ハスシテ他地方ニ轉耕シ一村殆ト荒廢ニ歸セントスルニ際シ本邦人來リ代リテ同業ニ從事シタル結果廢地ヲ變シテ肥沃ノ土地トナシ現今一ヶ年十餘萬箱ノ收穫ヲ生シ十四五萬弗ノ收益ヲ見ルニ至レリ同地方ノ白人特ニ地主等カ大イニ本邦人ヲ厚遇シ同村ノ有力者ハ新聞紙ニ寄書シテ大ニ本邦人ノ歡迎スヘキヲ唱道シタルカ如キ素ヨリ故ナキニ非サルナリ小官ハ昨年同村ニアル日本人農業組合ノ組成ヲ獎勵シ終ニ「日本人栽培業者組合」Japanese Growers' Associationヲ設立シテ彼等共同利益ノ發達保護ヲ計ルノ機關トセリ「フロリン」地方ニ次キ最モ有望ナルハ

「コートランド」及「ウオルナツ・グロヴ」ノ二地方ニシテ専ラ豆及馬鈴薯ヲ産シ本邦人農業者ノ數及其耕地ノ廣サニ於テ第一位ヲ占ム然レ共該地方ノ農業者ハ其生産品ノ性質上毎年若ハ二年毎ニ土地ヲ轉耕スルノ必要アルヨリ自然一地方ニ定住シテ村落的集合ヲナスニ至ラサルハ遺憾ナリ本邦人ノ土地ヲ所有スル者未タ多カラス「フロリン」地方ニ於ケル三百五十「エーカー」ノ外各地方ニ多少ノ土地所有者アルヘシト雖モ恐ラク百五十「エーカー」ヲ出テサルヘシ故ニ本邦人所有ニ係ル土地ハ總計五百「エーカー」ト見積ラハ大差ナカルヘシ而シテ土地買入ノ方法ハ敢テ他ニ資本家アリテ之カ力ニ依頼スルニ非ラス中ニハ自己數年來ノ貯蓄ヲ以テ現金買入ヲナス者アリト雖モ多クハ年賦契約ニ依ルヲ常トス其契約ハ或ハ三年或ハ五年七年等各土地ノ慣習若ハ賣買者間ノ信用關係ニ依リテ長短ノ差異アリト雖モ土地稅ト賣買價格ニ對スル利子及年賦金ヲ支拂フヘキ條件ヲ以テ直ニ土地所有權ヲ移轉スルハ普通ノ契約方法ナルカ如シ尤モ地主ニ依リテハ其土地ニ栽培スヘキ栽培物ヲ指定シテ契約條件トナスモノアリ土地賣買價額ハ地質及地方ニ依リ甚シキ高低アルモ一「エーカー」五弗乃至百弗ト見レハ大差ナカルヘシ本邦人ノ耕作ニ從事スル地名、面積生産品及其人員等ハ別表ニ掲載セリ而シテ之素ヨリ概算ニ過キサレハ多少ノ違算ヲ免レサルヘシ

追而別表第一號掲載ノ地方ニ在留スル本邦人ノ總數最近ノ統計ニ基キ別表第二號ニ掲出ス彼等ノ多クハ勞働ノ季節ニ依リ各地ニ轉々スル者ナレハ素ヨリ常住者ト見做スヘカラサルナリ
(別表第一號)

地名	人員	所有地	借受地	耕作物種類
「サリナス」及「キヤストロヴィル」	一三		五〇〇 ^{「エーカー」}	砂糖大根馬鈴薯及果物
「ワッソンヴィル」	一〇		五〇〇	苺及砂糖大根
「サン・ノゼ」	三〇		五〇〇	果物及野菜
「ヴァカヴィル」及「ウインタース」	三五		二、五〇〇	果物及野菜
「コルサル」	五		三〇〇	果物及野菜
「ノード」及「チコ」	五		二〇〇	野菜
「フロリン」	七〇	三五〇	七〇〇	苺
「スタクトン」	二		三、〇〇〇	馬鈴薯、豆及野菜
「コートランド」及「ウオルナツ・グロヴ」	一〇〇		五、〇〇〇	豆及馬鈴薯
「ペンリン」及「ニュー・キヤスル」	五〇		二、五〇〇	果物及苺

果物

「フ レ ス ノ」	三〇	一、〇〇〇
合 計	三五〇	一六、七〇〇

(別表第二號)

地 名	居留本邦人數
「サ リ ナ ス」	一一二
「キ ヤ ス ト ロ ヴ イ ル」	二一〇
「サ ン ・ ノ ゼ」	一五二
「ワ ッ ソ ン ヴ イ ル」	四八九
「ヴ ァ カ ヴ イ ル」	二六五
「ウ イ ン タ ー ス」	二〇九
「コ ル サ」	五〇
「チ コ」及其附近	一〇七
「フ ロ リ ン」	一八八
「ス タ ク ト ン」	二〇〇

「コ ー ト ラ ン ド」	一五五
「ウ オ ル ナ ッ ツ ・ グ ロ ー ヴ」	三三二
「ベ ン リ ン」	三二八
「ニ ュ ー ・ キ ヤ ス ル」	一二一
「フ レ ス ノ」及其附近	八六五
合 計	三、七八三

(別表第三號)

一九〇一年(明治三十四年)中桑港出入本邦人數

月 日	入	出
一 月	三四 ^人	六六 ^人
二 月	七〇	五五
三 月	一〇六	六二
四 月	一〇三	三八
五 月	五二	六二

六	月	一四二	四三	一一六
七	月	一一五	四六	
八	月	一五三	七〇	
九	月	一九七	八八	
十	月	一二六	一五五	
十一	月	一〇四	一五七	
十二	月	二一五	一三五	
計		一、四一七	九七七	
一九〇二年（明治三十五年）一、二月中桑港出入本邦人數				
月	日	入	出	
一	月	八九 _人	一二四 _人	
二	月	七〇	七七	
計		一五九	二〇一	

三、移民旅券發給ニ關スル小村外務大臣ノ通牒

六月六日附ヲ以テ小村外務大臣ハ各地方長官ニ對シ米國行移民ハ一切其渡航ヲ差止メタル處今後同國行移民ニシテ在同國帝國領事又ハ帝國領事館分館主任ノ發給セル在留證明書ヲ有スル者及其妻子ニ限り渡航許可スルモ差支ナキ旨訓令セリ

第十四、一九〇三年及一九〇四年ニ於ケル一般排日狀況

一、米加行移民旅券發給ノ制限

一九〇三年（明治三十六年）三月二十七日附ヲ以テ珍田外務總務長官ハ各地方長官ニ對シ米國竝ニ英領加奈陀行移民ノ儀ハ目下禁止中ナル處客年十二月中「ブリテイッシュ・コロムビア」州ノ移民制限法ハ否決セラレ此程又米國ニ於テ改正發布シタル移民條例ハ渡米移民ノ爲格別不利益ヲ見サルヲ以テ近來米加渡航希望者又ハ移民事業關係者ヨリ右兩地行移民ノ解禁ヲ出願スル者往々有之然ルニ顧ミテ米國加奈陀ニ在ル我移民ノ狀態ヲ觀ルニ近來漸ク土着ノ傾向ヲ生シ其成績惡シカラス加フルニ該兩地ニ於ケル事業家ハ賃銀ノ低廉ヲ利トシ我勞働者ノ移入希望者アルニ拘ラス彼地ニハ依然之ニ反對スル勞働者ノ一派アリテ其氣勢未タ衰ヘタリト謂ヒ難ク幸此一兩年間ハ我禁止ノ爲其勢熾盛ナラサルモ一旦我勞働者ノ移入ヲ増加スルトキハ忽チ排斥ノ聲ヲ高メ轉シテ政治上ノ問題トナルハ必然ノ勢ニシテ其結果「ブリテイッシュ・コロムビア」ニ於ケルカ如ク再度ノ移民

法制定トナル等單ニ我勞働者ノ移入ニ妨碍ヲ與フルノミナラス商人學生視察員又ハ遊歷者ノ爲ニモ尠カラス妨碍ヲ來シ彼我ノ通商航海上ニ間接ノ打撃ヲ被リタリト云フモ敢テ不可ナキ次第ニ有之政府ハ米加行移民ハ永久ニ之ヲ禁止セントスル趣旨ニ無之若シ忽チ之ヲ解キテ忽チ又之ヲ禁スルカ如キコトアリテハ帝國ノ體面ニモ關スルニ付今後篤ト彼地ノ情況ヲモ調査シ旁々彼我ノ意思ヲ疎通スルニ勉メ時機ノ到來ヲ待テ其禁ヲ解クヘキ方針ニ有之右御合ノ上米加行出願ノ勞働者ニ對シテ可然示諭スヘキ旨通達セリ

二、各種ノ排日法案

十二月一日米國下院議員「ロビンソン」ハ一個ノ極端ナル日本人排斥法案ヲ提出シ同案ハ外交委員會附託トナレリ而シテ該法案ノ主旨ハ支那人排斥法ヲ其儘本邦人ニ適用セントスルモノナリシ處右ノ外上院議員「バーキンス」提出ノ「英語又ハ其他ノ國語ヲ讀ミ書スルコト能ハサル十六歲以上ノ者ハ身體健全者ト雖モ合衆國ニ入ルヲ許サス」トスル法案及同シク上院議員「ロッチ」提出ノ「十五歲以上ニシテ英語若ハ他ノ國語ヲ解セサルモノハ入國スルヲ得ス」トスル法案等引續キ提出セラレシモ何レモ大統領選舉ノ都合上該議會ハ取急キ閉會スルコトトナリタル爲何等討議處分ヲ經ルコトナク終リタリ

三、日本移民ノ渡航ト其影響

一九〇四年（明治三十七年）五月十八日附ヲ以テ在桑港上野領事ヨリ小村外務大臣宛ニ米國及加奈陀行移民禁止令實施中ニ拘ラス種々ノ名義ニ下ニ渡航スル多數ノ本邦勞働者ニ關シ調査報告スル所アリタリ其大要左ノ通

最近ノ統計ニ依レハ本邦ヨリ直接當地ニ渡來スル移民ハ一ヶ月平均七十人ニシテ之ニ布哇ヨリ轉入スル者約二百人ヲ合シ毎月二百七十人内外ノ渡航者アリ而シテ之ニ對スル毎月ノ歸國者平均ハ約百七十人ナルヲ以テ差引一ヶ月百人ノ増加ヲ見ルヘシ然ルニ加州ニ於ケル事業特ニ開耕範圍ハ年々擴張ノ傾向ヲ呈スル上支那人排斥法實施以來同國人耕作者逐年減少シ彼等ノ占領セル區域ハ漸次邦人ニ轉移スルヲ以テ前記少數ノ増加ハ勞働區域ノ伸縮上何等ノ影響ヲ及ボサス加之昨年來「ユタ」「アイダホ」「コロラド」「ワイオーミング」諸州ニ於ケル鑛山農園及鐵道等ノ事業ニ邦人勞働ノ區域ヲ伸張シ南米諸方面ニ收容セラルル勞働者尠カラサルヲ以テ一ヶ年三四千人ノ増加ハ之ヲ收容スルノ餘地ハ充分有之ヘシ

尙十數年來日本人排斥ヲ唱道シ屢々合衆國議會ニ法案提出セラレタルモ常ニ失敗ニ終リタルヨリ白人勞働者ハ其主張ノ到底實行セラルヘカラサルヲ思ヒ地方政治家モ亦排斥論ノ最早ヲ選舉ノ好餌タラサルヲ看取シタル爲カ近年熱度冷却ノ狀ヲ呈シ一九〇二年來「ホノルル」ヨリ轉入

スル我労働者ハ時トシテハ一船三百人ニ達シタルコトアリシモ何等ノ物議ヲ醸スニ至ラサリキ
此事例ニ徴スルニ一ヶ月四五百人ノ渡來ハ敢テ排斥熱ヲ挑發スルノ結果ヲ生セサルヘシト推斷
セラル

四、米國労働聯盟大會

十一月十四日ヨリ桑港ニ開催セラレタル米國労働同盟大會ニ於テ加州労働同盟會ヨリ日本人排斥
問題ヲ提出シ二十一日集會ニテ現行支那人排斥法中ニ日本人及韓國労働者排斥條項挿入ノ問題ニ
關シ請願書ヲ合衆國議會ニ提出シヘシトノ決議ヲ爲セリ該決議ノ前後ニ於テ加州労働同盟會長及
二三委員ノ日本人排斥演說アリ其理由ハ例ニヨリ何レモ日本人労働者ノ賃銀低廉道德劣等白人ト
同化セサルコト手工等ニ巧ミニシテ白人労働者ノ競争シ能ハサルコト等ニシテ年來彼等ノ唱道セ
ル慣用辭柄ニ外ナラス

抑々日本人排斥條項ヲ支那人排斥法中ニ挿入セントスルノ議ハ加州労働同盟會ノ宿望ニシテ先年
來屢々運動ヲ試ミタルモ中央及東南部諸州ニ於テハ直接ノ利害ヲ感セサルヨリ自然本問題ヲ冷遇
シ只形式的ノ贊同ヲ表スルニ止マルノ状態ナルヲ以テ今日迄米國労働同盟大會ノ重大問題トナル
ニ至ラサリシモノノ如シ而シテ加州労働同盟會中少シク事理ヲ解スル者ハ能ク此間ノ消息ヲ知悉

シ又從來ノ經驗ニ徴シ日本人排斥案ノ到底議會ヲ通過シ難キコトヲモ推知スルカ故ニ日本人排斥
問題ニ對スル熱心ノ度モ年々冷却ノ傾向ヲ呈セルヤニ認メラレタリ今回ノ如キモ亦自ラ活氣ヲ缺
キ只形式的ニ決議シタルカ如キ觀アリ隨テ桑港ノ重立チタル新聞紙等ノ該決議ニ對スル態度モ亦
甚タ冷淡ニシテ現ニ労働者ノ機關トシテ目セララル「エキザミナー」紙ノ如キモ右ニ關シ何等興
奮の言辭ヲ弄セス只數行申譯の記事ヲ掲載セルニ過キス「クロニクル」紙ニ至リテハ日本人排斥
決議ニ關スル記事ニ只僅ニ一二行ヲ費シタルニ止マルノミナラス其社説ニ於テ支那人排斥ノ必要
ハ只賃銀低廉ナルノ故ニアラスシテ却テ其白人ト同化セサルニ在ルヲ論シ暗ニ大會ニ向テ日本人
ノ支那人ト選ヲ異ニスルモノアルヲ諷刺セリ

第十五、一九〇五年及一九〇六年ニ於ケル一般排日狀況

一、加州議會ニ於ケル排日決議

一九〇五年（明治三十八年）三月一日加州上院ハ日本移民ノ入込ミニ伴フ危險ニ關シ合衆國大統
領及國務省ノ注意ヲ喚起シ且日本労働者ノ之以上米國ニ入込ムコトヲ制限シ且之ヲ減少セシムル
カ爲條約又ハ他ノ方法ニ依リ直ニ可然措置方ヲ請求スルノ件ヲ議決シ續テ下院モ亦同様議決セ
リ

右決議案ノ内容ヲ檢スルニ當時加州ニ於ケル日本移民ニ關シ排日派ノ抱懷セル意見ノ要約トモ見
ラレ相當注目スヘキモノト認メラルルニ付左ニ之ヲ掲記スヘシ

(一) 日本移民制限ニ關スル決議案ノ内容

太平洋沿岸諸州及諸領地特ニ加州ニ日本人ノ移住カ繼續増加スルハ之等諸州及諸領地特ニ加州
人民ノ保安及其繁榮ノ上ニ由々シキ危險アルニ依リ今ヤ速カニ其制止ニ關スル方法ヲ執ルノ必
要ヲ認ム而シテ右日本移民ノ我州ニ進入シ且其數ヲ増加スルノ一大危害タルハ次ニ掲クル事實
ニ依リテ證明セラルル所ニシテ且普ク世人ノ承認スル所ナリ

(イ) 日本勞働者ノ移住ハ人種的慣習其生活ノ方法氣風及一般ノ性質ハ我カ人口ニ望マシカラサ
ル者ノ増加ヲ來スモノタルコト

(ロ) 日本勞働者ハ歸化シ能ハサルモノナリ故ニ假令彼等ニ於テ之ヲ欲スルモ(彼等ハ實際之ヲ
望マス)合衆國市民トナリ而シテ其市民トシテノ特權及責任ヲ有スル能ハサルモノタルコト

(ハ) 日本勞働者ハ我人民ト同化シ又ハ米國人タランコトヲ希望スルノ意嚮アルコトナシ彼等ハ
日本人トシテ存在シ共和制度ニ對シテハ何等尊敬ヲ有スルコトナク常ニ其ノ母國ノ國民タル
觀念ヲ繼續シ唯其歸國ノ時期ヲノミ待望スルモノタルコト

(ニ) 現時太平洋沿岸ニ群集スル日本移民ハ其僅少ノ場合ヲ除クノ外ハ輕少ノ賃銀ニ對シ長期間
勞働ニ従事スル契約勞働者ノ種類ニ屬スルモノナリ故ニ其名義ハ兎モ角モ實際上ニ於テハ奴
隸ノ狀態ニ在ル下級勞働者カ吾人社會間ニ充滿シ居ルコト

(ホ) 日本勞働者ハ個人トシテ雇ハルルコトナク組ヲ作り夫々請負人ヨリ傭ハルルモノナリ而シ
テ該請負人ナルモノハ一切勞働者ノ仕事ヲ監督シ契約條件ヲ豫メ定メテ勞働者ヲ此國ニ連レ
來リ其ノ勞働ノ場所人數ノ振分時期及給料等ハ右請負人ト雇入者トノ間ニ協定セラルルモノ
タルコト

(ヘ) 日本勞働者請負人ハ常ニ白人勞働者ニ在ツテハ一家ノ普通生活ヲ支持シ其子女ヲ教育スル
コト能ハサル程度ノ低賃銀ノ下ニ需要ニ應シテ日本勞働者ヲ供給シ得ルコト

(ト) 日本契約勞働者ハ既ニ加州ニ於ケル各種産業ニ於テ勢力ヲ有シ其勞働賃銀カ低廉ナル理由
ニ依リ白人勞働者ヲ壓シ而モ絶エス勞働區域ニ侵入シテ白人勞働者カ之迄従事シ以テ其生活
ヲ支持シタル職業ヲ奪フモノタルコト

(チ) 日本勞働者ハ適度ニ之カ移住ヲ制限スルニアラサレハ遠カラスシテ加州白人勞働者カ其生
活ヲ支持スルニ充分ナル勞働賃銀ヲ保持スヘキ機會ヲ失セシメ一大悲運ニ陷ラシムルコト

(リ) 日本勞働者ハ其一時居住スルコトヲ得ヘキ土地ノ公共事業ニ對シ更ニ自己ノ收益ヲ分ツコ

トナシ單ニ假寓者ニ過キサリナリ即チ契約者ヨリ與ヘラレタル特種ノ仕事ヲナスカ爲ニ來リ
仕事終レハ又他所ニ轉ス彼等ハ土地ヲ購入シテ一家ヲ爲スコトナク又ハ營業又ハ家族ノ爲ニ
家屋ヲ建設シ若ハ之ヲ買入ルルコトナシ彼等ハ加州ノ發達ニ何等貢獻スルコトナキヲ以テ州
繁榮ノ阻害者タルノミナラス其安康ニ一大危害ヲ與フヘキモノナルコト

(ヌ) 布哇ニ於ケル勞働難ハ日本勞働者ノ大多數ヲシテ加州ニ渡來セシムルニ至リ今日迄桑港ニ
上陸セシ者ハ毎月五百人ヲ下ラス既ニ之等移民増加ノ現狀ニ於テスラ尙不幸ナル結果ヲ來ス
ヘキ充分ノ虞アルニ際シ若シ日露戰爭ニシテ終結ヲ見シカ除隊セラレタル日本兵卒等ハ千百
ノ多數ヲ以テ續々太平洋沿岸ニ群カリ來ルヘキヤ必然ニシテ加州ハ忽チ不道德ニシテ爭鬪好
キナル勞働者ノ群集ヲ見ルヘク而シテ彼等ハ終ニ白人勞働者カ其生活ヲ支持シ得サルカ如キ
低廉ナル賃銀ニ生存スルノ止ムヲ得サルニ至ルヘキハ豫想スルニ難カラサルコト

(二) 立法請願決議ノ内容

上院下院ノ同意ニ依リ加州代表者トシテ吾人ハ本州民ノ保護ノ爲及其利益ノ適當ナル防衛ノ爲
ニ條約若クハ其他便宜ノ方法ニ依リ北米合衆國ニ於ケル日本勞働者今後ノ移住ヲ制限シ且遞減

センカ爲迅速ニ處置ヲ執ルヘキ必要ヲ認ムルニ依リ茲ニ此緊急且強硬ナル決議案ヲ提出シ大統
領及國務省ニ本件立法ヲ請願ス

加州知事ハ大統領及國務長官ニ一件書類及其決議ノ寫ヲ送付スヘシ

尙右決議案提出當時ノ事情ニ關シ在桑港上野領事ノ報告スル所大要左ノ通

從來日本人排斥問題ニハ冷淡ナリシノミナラス寧ロ日本人同情者トシテ目セラレタル桑港「ク
ロニクル」紙ハ去月下旬突然其態度ヲ一變シテ日本勞働者ノ移住ニ反對スル旨ノ宣言ヲ爲シ爾
來論說及雜報欄ニ於テ極力毒筆ヲ弄シテ連日日本人攻撃ヲ試ムルニ至リ内外人ヲシテ其變調ノ
急激ナルニ喫驚セシメタル處越エテ數日州議會ニ於テ本件決議案ノ發現ヲ見ルニ至レリ察スル
所該新聞紙ハ近來加州政客特ニ共和黨員中ニ日本人勞働者排斥ノ暗潮アルヲ聞知シ決議案ノ公
然州議會ニ提出セラルルニ先立チ豫メ其聲援ヲ爲シタルノ觀有之「クロニクル」紙ノ唱道スル排
斥論點及州議會決議案ニ附帶セル理由ノ多クハ十數年來白人勞働者ニ依テ唱道セラレタル論據
ト異ナル所ナシ而シテ從來深ク排斥論ニ傾聽セサリシ州議會及「クロニクル」紙力急遽此陳腐
ナル理由ヲ以テ日本人勞働者ノ排斥ヲ提唱スルニ至レルノ動機那邊ニ存スルヤヲ推測スルニ彼
等ノ眞意ハ蓋シ表面ニ揭示スル理由外ニ潛在スルヲ看取シ得即チ日露戰爭ニ依テ發揚セラレタ

ル我國民ノ偉大ナル勢力ヲ認識スルト同時ニ戰後壯丁ノ襲來ヲ豫想シ斯ノ如キ國民ノ太平洋沿岸ニ増殖發達スルハ政治上及經濟上勁敵ヲ牆壁ノ中ニ作ルモノナリトノ妄想ヲ發シ今更ノ如ク恐怖ノ念ニ驅ラレタルニ依ルモノナリ今回ノ排斥決議案ハ勞働社會ノ運動ニ依テ刺戟セラレタルニ非ラスシテ多少地位識見ヲ有スル上院議員等ノ主唱ニ出テタルモノナルノ事實ニ徴スルモ其動機ノ奈邊ニアルヤヲ窺知スルニ難カラス決議案ニ附帶スル理由中日本人ハ土地ヲ購入セス又勞銀低廉ナリ等ノ事項ハ全ク事實ニ反スル虛構ノ言ニシテ我移民ノ近年土地ヲ所有シ家庭ヲ營ミ大ニ在留地ノ繁榮ニ貢獻スル所アルニ至リタルハ顯著ノ事實ニ有之又農園ニ勞働スル本邦人ノ如キハ却テ白人勞働者ヨリ高額ノ賃銀ヲ受クルノ狀態ニ在リ但シ近來「ホノルル」ヨリ渡來スル我勞働者ノ數著シク増加シ每船百乃至三百ノ移入ヲ見ルニ至リ多少當國人ノ視聽ヲ牽キタルハ事實ナリトス

二、排日決議ニ關スル宗教家ノ態度

三月一日及二日ニ於ケル加州議會ノ日本勞働者移住制限決議ニ關シテハ當初ヨリ日本人排斥ヲ唱道シタル桑港「クロニクル」紙ハ依然トシテ其態度ヲ維持シ惹テ白人勞働者ノ各種集會ニ於テ同様排斥ノ決議ヲナスモノ續出セリ右形勢ヲ憂ヒ太平洋沿岸美以教會監督「エイチ・ビー・ジョンソン」博士ハ新聞雜誌等ニ於テ右「クロニクル」紙ノ記事及論說ニ對シ反駁ヲ試ミ尙桑港宗教家ノ

間ヲ奔走シタル結果三月二十日中央美以教會ニ於テ日本人辯護ノ決議ヲ爲スニ至レリ

三、排日決議ニ關スル「コール」紙論調

三月二十五日桑港「モーニング・コール」紙ハ社說ニ於テ歐洲移民ト日本勞働者ト其品性ニ於テ差異ナキコト及條約上日本人ノミヲ排斥スルノ不可能ナルコト等ヲ論シテ暗ニ「クロニクル」紙一派及白人勞働者等ノ偏見ヲ說破シテ排斥ノ不條理ナルヲ唱ヘタリ

四、加州日本人排斥大會

曩ニ三月四日桑港ニ於テ建築職工組合大會ハ日本人排斥ノ決議ヲ通過セル處遂ニ同組合發起ノ下ニ五月七日右排斥ニ贊セル加州各種勞働團體委員ヲ召集シ「トヴァイトモア」中心トナリ桑港「リリック・ホール」ニ於テ第一回加州日本人排斥大會ヲ開催セリ當日ハ桑港市長「シュミッツ」及州議會上院議員「ウーレ」ヲ初メトシテ數名ノ演說アリタリシモ其趣意ハ殆ト同一ニシテ要點ハ(イ)日本人ノ智識及技倆ハ決シテ白人ニ劣ルモノニアラス而シテ低廉ノ給料ト劣等ノ衣食住ニ甘シシ勞働ニ従事スルヲ以テ競争上白人勞働者ハ漸次其職ヲ奪ハレ其結果恐ルヘキ害惡ヲ社會ニ與フヘキコト(ロ)日本人ハ永住的ニアラスシテ其收得ハ悉ク母國ニ送ルモノナルニ依リ米國ノ富

ニ何等貢獻スル所ナシト云フニアリテ當日出席者ハ右委員二百有餘名ト聽衆僅ニ百餘名ニシテ且演說半ハニシテ退席スル者等多ク更ニ其氣勢舉ラサリシ模様ナリ尙同會ハ十四日更ニ第二回ヲ開催シ綱領規則等ヲ討議ニ付シ永ク本會ヲ保存スルノ目的ヲ以テ其維持法等ヲ講スルコトナレリ

五、日韓人排斥同盟會ノ成立

然ルニ其後日本人排斥大會ハ「トヴァイトモア」ヲ會長トシ日韓人排斥同盟會 (Anti-Japanese and Korean League) ト改稱シ屢次公開會議ヲ開キタル末六月二十六日夜右同盟會ニ賛成シタル各地方勞働團體ノ代表約百數十名ヲ召集シ桑港「バイオニヤ・ホール」ニ於テ同會決議案ヲ通過セリ該決議ノ要旨ハ(イ)米國勞働者ハ競争ニ依リ其生活ノ程度ヲ低下セシムル勞働者ニ對シテ保護セラルヘキコト(ロ)蒙古人種ノ無制限ニ米國ニ侵入スルハ米國工業及勞働界ニ直接害惡ヲ及ホスモノタルニ依リ之ヲ禁壓スヘキコト(ハ)現行日米條約第二條末項ノ規定ニ基キ合衆國議會ハ日本移民ノ排斥法ヲ制定スルモ何等國際上ノ紛議ヲ惹キ起スコトナシ(ニ)右ノ理由ニ依リ米國勞働團體ハ合衆國議會議員ヲ訪問シテ現行支那人排斥法ノ範圍ヲ擴張シテ日本人及朝鮮人ヲモ其内ニ包含スヘキ様運動スルコト(ホ)本會ハ合衆國內ノ各地ニ至急其支部ヲ設置スヘキコト等ニシテ尙同

會本部ヲ桑港「マーケット」街ニ設ケ幹事及書記ヲ置キ該事務ヲ取扱フヘキ議ヲ可決シ散會セリ

六、日韓人排斥同盟會ノ活動振

其後日韓人排斥同盟會ハ屢次會議ヲ開キ委員ヲ改選シタルモ其聲ノ大ナルニ拘ラス會勢萎靡振ハス會費ノ集金高僅ニ六百七十一弗ニシテ其費用ヲ支辨シ二弗五十仙ノ餘剩ヲ見ルニ過キス加フルニ同會ノ決議ヲ合衆國議會ニ提出シ通過ノ盡力ヲ依頼シタル加州選出上下兩院ノ議員等ハ本件ニ對シ何レモ冷淡ニシテ更ニ其依頼ノ效果見エサルニ依リ八月十三日同會ハ再ヒ集會ヲ開キ右ニ對シ三十五名ノ運動委員ヲ舉ケ同會ノ勢力擴張方ニ關シ協議セリ同會ノ内情前陳ノ通ニシテ獨力會勢ヲ維持スルハ到底困難ノ形勢ニシテ十三日ノ集會ノ如キモ單ニ委員ノミヲ舉ケテ加州議員ノ不熱心ヲ憤リタル外何等論議ノ見ルヘキモノナキ有様ナリ

七、米國移民局長及「コロムビア」駐劄米國公使ノ談話

加州ニ於ケル日本人勞働者排斥運動ニ關シ實況調査ノ爲桑港及布哇ニ出張シタル合衆國移民局長「サー・ジェント」ト在桑港上野領事トノ面談ノ際同氏ノ内話ニ依レハ同氏ノ調査ノ結果日本人勞働者ニ關シテハ良好ノ印象ヲ受ケタルノミナラス彼等ノ存在ハ寧ロ當方面ノ事業發達上必要ナル

ヲ認ムルヲ以テ政府ニ此趣旨ノ報告ヲ提スル筈ナリ而シテ歐洲ヨリ東部ニ渡來スル移民ハ南部諸州ノ如キ勞働者ノ缺乏ヲ告クルニ拘ラス多クハ都市ニノミ群集シ地方ノ勞働ニ就クヲ好マサルノ弊アリテ諸州ニ於ケル事業啓發上ニ裨益スル所甚タ少シ如斯ハ合衆國カ移民ヲ需要スル主旨ニ非サルヲ以テ之等ノ弊害ヲ防キ適當ナル勞働分配ノ方法ヲ設ケ傍ラ移民渡航ニ制限ヲ置クノ目的ヲ以テ次期議會ニ於テ移民法ニ改正ヲ加ヘ日本人ト歐洲人ト區別ナク一樣ニ適用スル見込ナル趣ナリ依テ上野領事ハ日本人勞働者ノ加州農業發達上ニ貢獻セル事例將來廣漠タル沃野ヲ開墾シ富源ヲ開發スルニハ日本人勞働者ノ力ニ俟タサルヘカラサルコト竝ニ農園勞働者トシテ日本人ノ受クル賃銀ハ却テ白人勞働者等ノ上ニ在ルコト等ヲ陳述シ且以上ノ事實アルニ拘ラス常ニ日本人排斥唱道ノ聲ヲ聞クハ地方政客輩カ勞働者ノ歎心ヲ得テ自己ノ選舉地盤ノ開拓ノ具ニ供スルカ爲ニ外ナラス故ニ排斥ノ根本的原因ハ日本人ノ投票權ヲ有セサルニ在リ若シ日本人カ合衆國市民權ヲ得ルニ至ラハ永久ニ排斥ノ聲ヲ絶ツコトヲ得ヘキ旨ヲ說キタルニ同氏モ充分此間ノ消息ヲ了解セル旨ヲ語レリ

其後「コロムビア」駐劄米國公使「ジョン・バレット」(John Barrett)移民問題ニ關シ大統領ノ密命ヲ含ミテ桑港ニ來リシ際モ數時間ニ互リ上野領事ト懇話ヲ爲シタルニ同氏ハ大統領「ルーズヴェ

ルト」竝ニ合衆國政府ハ一般ニ加州ノ日本人排斥運動ニ對シ些ノ同情ヲ有セサルノミナラス内密ニ之カ鎮靜策ヲ講セリ余カ今回ノ來桑モ畢竟其内意ヲ含メルニ外ナラス云々ト語レリ
又同氏ハ桑港「クロニクル」紙ノ日本人排斥ヲ主唱シタル原因ニ關シ同新聞社主「デイ・ヤング」カ曾テ歐洲某國ノ大使タランコトヲ大統領ニ請求シテ拒絕セラレ報復ノ爲現政府ニ煩累ヲ與ヘントセルハ其動機ノ一ナリト談レリ依テ上野領事ハ日本人勞働者ニ關シ曩ニ移民局長ニ爲シタルト同様ノ陳述ヲ爲シ且日本人排斥ノ根本的原因ハ歸化問題ニ在ルヲ說キタルニ同氏ハ大統領モ能ク此點ヲ認知スル旨ヲ語レリ而シテ大統領ノ意見ナリトシテ同氏ノ語ル所ニ據レハ此際歸化法ヲ改正スルハ聊カ困難ノ事情アルヲ以テ大審院ノ判決例ヲ作リテ日本人歸化權ヲ認許スルノ外ナシ然ルニ現任大審院判事ノ多數ハ該問題ノ解釋ニ關シ日本人ニハ不利益ナル意見ヲ有スルカ故ニ今日ニ於テ右試訴ヲ提起スルハ不利ナリ依テ現任判事更迭ノ時期ヲ待チ多數ノ意嚮我ニ有利ナルヲ確メタル上之ヲ提起スルコト可ナルヘシト云ヘリ

八、排斥同盟會ノ其後

日韓人排斥同盟會其後ノ狀況ヲ見ルニ主唱者タル「クロニクル」紙ハ殆ント日本人攻撃ノ銳鋒ヲ收メ同盟會ニ關スル記事ヲ掲載スルニ當リテモ別ニ煽動の語調ヲ用ヒサルニ至レリ加州選出上下

兩院議員等モ同盟會ヨリ運動援助ヲ請求セルニ對シ單ニ申譯的挨拶ヲ爲スニ過キスシテ寧ロ冷淡ノ狀ヲ示セルヨリ反ツテ同盟會ノ攻撃ヲ受クルニ至レリ又同盟會ハ會員トシテ六萬内外ノ多數ヲ有スト號スルニ拘ラス組織以來僅ニ六萬餘弗ノ寄附基金ヲ得タルニ過キス然モ八月十四日ノ會議ニ於テ報告シタル收支計算ニ依レハ殘金僅ニ二弗五十五仙ナリシト云フ尙同盟會ニ於テハ十一月二十六日大會ヲ開キ同會活動ノ一着手トシテ次期第五十九回議會ニ提出スヘシト稱スル日韓人排斥法案及同勞働者現況ニ關スル報告書ナルモノヲ發表セリ同法案ノ主旨ハ支那人排斥法ヲ日韓人ニモ適用セントスルモノニシテ同報告書ハ日本人カ總テノ勞働方面ニ對シテ勞働賃銀低廉ニシテ長時間勞働スルモノナルヲ說キタルモノナリ

九、日韓人排斥法案ノ提出

十二月五日加州「サンタ・ローザ」選出共和黨下院議員「マッキンレー」ハ支那人入國禁止法ヲ日韓人ニ等シク適用セントスル法案ヲ同院ニ提出セリ該案ハ法案ノ性質上寧ロ移民委員ニ委託セラハヘキニ却テ先ツ外交委員附託トナリタルカ其通過ハ枘置キ眞面目ノ議題トナルコトスラ覺束ナカルヘシト見ラレ提出者自身ニ於テモ必スシモ誠意其通過ヲ期セルニ非ラスシテ寧ロ其選舉區民ノ意嚮ヲ迎フル政略上ノ必要ニ出テタルモノニ過キササルヤニ傳ヘラレタルカ遂ニ其成立ヲ見スシ

テ止ミタリ

一〇、布哇ヨリ轉航ノ日本移民

米國渡航本邦出稼人ハ明治三十七八年（一九〇四、五年）戰役以來一時中止ノ姿ナリシ處布哇ヨリ桑港ヲ經「シアトル」地方ニ入込ムモノ月々尠カラサルモ右ハ「シアトル」地方ニ於ケル勞働需要ニ比シ到底充分ナル能ハス日本勞働者ノ移入ヲ望ムモノ漸ク増加セルヲ以テ「シアトル」ノ「グリフィン」船貨物取扱會社カ此機ヲ利用シ「ボストン」汽船會社船「オリムピア」號ヲ特約シ「シアトル」布哇間ノ新航路ヲ開始シ人夫運搬ヲ主トシ五六回ノ見込ヲ以テ一九〇六年（明治三十九年）二月來往復中ナリシ處三月二十日入港ノ同船ニテ本邦人二百二十七名韓人九十名合計三百十七名ヲ搭載シ來レリ彼等ハ「シアトル」ニ着船直ニ埠頭ヨリ内地鐵道線ニ入込ミ夫々就業セルモノニシテ「シアトル」本邦人經營東洋貿易會社ノ手ニ屬セリ彼等ノ進退最モ機敏ニ行ハレタルヲ以テ更ニ不體裁ナク市民ハ新聞紙上ニテ其渡來ヲ知リシノミナレハ白人勞働者團體ニ於テモ何等容喙ノ餘地ナカリシモ一九〇五年來布哇ヨリ特約船ヲ以テ本邦人ヲ斯ノ如ク運搬セシコト都合三回ニ及ヒシヲ以テ其儘經過セハ向後如何ナル不詳事ヲ生センモ計リ難シトテ「シアトル」地方白人勞働者團體中不安ノ念ヲ生シタルモノト見エ桑港團體ト合同シ大イニ本邦及韓國人ノ防

退的運動ヲ當地ニ開始セントスル模様ヲ示スニ至レリ

一一、各政黨ノ排日問題ニ對スル態度

十一月ニ於ケル加州知事合衆國會議員等ノ選舉ノ切迫ニツレ各政黨ニ於テ之カ豫選會ヲ開キ評議ヲ遂ケタル結果其綱領ヲ發表シタリ而シテ社會黨共和黨民主黨勞動同盟及獨立黨ノ各政黨ハ何レモ其綱領中ニ日本人排斥ノ條項ヲ挿入シ勞動者ノ歡心ヲ買ヒ以テ投票ヲ誘ハントスルノ手段ヲ執レリ論旨大同小異ニシテ要ハ支那人排斥法中ニ他亞細亞人勞動者排斥ノ條項ヲモ挿入セントスルニ在リ又加州選出ノ議員「カーン」及「ヘイス」兩人ハ右共ニ日韓人排斥同盟會ニ於テ前期議會ニ於ケル同排斥案ノ經過ヲ報シ尙同人等再選ノ曉ニハ極力本案ノ通過ヲ計ルヘキヲ誓言セリ就中「ヘイス」ノ如キハ勞動者ノ歡心ヲ求メンカ爲議論頗ル極端ニ亘リ暴言ヲ極メタリ

一二、日本人ニ對スル暴行

桑港ニ於ケル日本人排斥運動ハ其後益々露骨激烈トナリ或ハ本邦商店ニ對シ「ボイコット」ヲ爲シ或ハ市街通行ノ日本人ニ對シ投石迫害ヲ加ヘ甚シキニ至ツテハ市當局者ニ於テ特ニ日本人ニ對シ諸般ノ規則ヲ勵行シ故ラニ本邦人ノ行動ヲ拘束スルカ如キ例尠ナカラサルニ至リ殊ニ一九〇六年四月十八日桑港ニ於ケル大震災以後東洋人ニ對スル米人側ノ感情益々惡化シ桑港市政ニ於ケル

複雑ナル内情ト相俟ツテ遂ニ學童問題其他各種ノ難問題ヲ惹起スルニ至レリ